瑞浪市道の駅基本構想

令和元年 8 月

瑞 浪 市

≪目　次≫

1 道の駅基本構想策定の目的..... 1

2 瑞浪市・釜戸地区の現状と課題..... 2

2.1 釜戸地区の人口増減と住みやすさ 2

2.2 国道 19 号瑞浪恵那道路の概要 5

2.3 釜戸地区の現況 6

2.4 道の駅に関する意向把握.....7

3 瑞浪市のまちづくりにおける道の駅検討の過程.....13

4 計画地周辺のビジョン 15

4.1 10 年後にめざすまちの姿.....15

4.2 実現に向けた取組みと役割分担例 19

5 道の駅のコンセプト 22

5.1 道の駅整備の基本方針.....22

5.2 道の駅のコンセプト.....22

6 道の駅の導入機能 23

6.1 道の駅への導入機能の設定 23

6.2 導入機能の規模 23

7 配置計画 24

7.1 計画地周辺の現況と施設配置の考え方.....24

7.2 施設配置とゾーニングイメージ 26

8 今後の進め方.....31

8.1 地域主体の運営の考え方.....31

8.2 道の駅開駅に向けたロードマップ（案）.....33

8.3 今後の取組み 35

9 瑞浪市道の駅検討委員会について 36

1 道の駅基本構想策定の目的

瑞浪市では、総合計画や都市計画マスタープランにおいて、釜戸駅周辺の釜戸地区を「地域拠点」と位置づけ、地域の中心となるコミュニティ施設の整備・充実や生活利便施設の誘導を図ることを、まちづくりの方針として掲げています。

また、瑞浪市と恵那市を結ぶ延長約 12.5 kmの国道 19 号瑞浪恵那道路が、平成 30 年（2018 年）４月に全区間事業化されました。

幹線道路となる瑞浪恵那道路の開通を好機と捉え、釜戸地区の「まちづくりの核」として地域課題を解消し、地域振興や地域活性化の役割を担い、さらには瑞浪市の新たな玄関口となる道の駅整備を目的に、この基本構想を策定しました。また、この基本構想は、釜戸地区だけでなく、他の地区にとっても、地域課題解消のモデルケースとなることを期待して検討しました。

なお、基本構想の策定にあたっては、学識経験者や、まちづくりに関わりの深い市民の方などで構成される「瑞浪市道の駅検討委員会」を設置し、協議を行いました。

＜道の駅検討の背景＞

〇人口減少・少子高齢化が顕著に進む釜戸のまちを、お年寄りから子どもまで、幅広い世代にとって、暮らしやすく、住み続けることができるまちとしたい。

〇さらに、まちの魅力を高めることで、地元の人だけでなく、新たに住みたいと思う人・新たに活動したいと思う人を増やしていきたい。

〇しかしながら、瑞浪市内でも人口減少が進む釜戸地区では、まちのにぎわいの喪失、商店の衰退などが進行し、まちとしての魅力が低下するという、悪循環に陥っている。

〇そのような現状のなか、瑞浪恵那道路事業が決定し、上平地区に平面交差点ができることとなった。まちの人口が減少するなか、新たな人の流れが生まれることをチャンスと捉え、交流人口を上手く取り込み、まちに関わる人の全体の人口を増やすことで、「暮らしやすさ」を実現するための機能（小売店や飲食店など）を導入し、まちのにぎわいも創出できる可能性があると考える。

〇そこで、まちとの交流人口を増やす手段として、道路利用者の休憩施設である「道の駅」の整備を検討することとした。

〇また、開駅までの時間を有効に活用し、暮らしやすさに必要な機能、にぎわいの創出、地域資源の活用、既存施設との連携、またそれらに関わる人材の発掘・育成など、必要な機能・活動について検証していき、まちとともに育っていく施設となるように検討する。

2 瑞浪市・釜戸地区の現状と課題

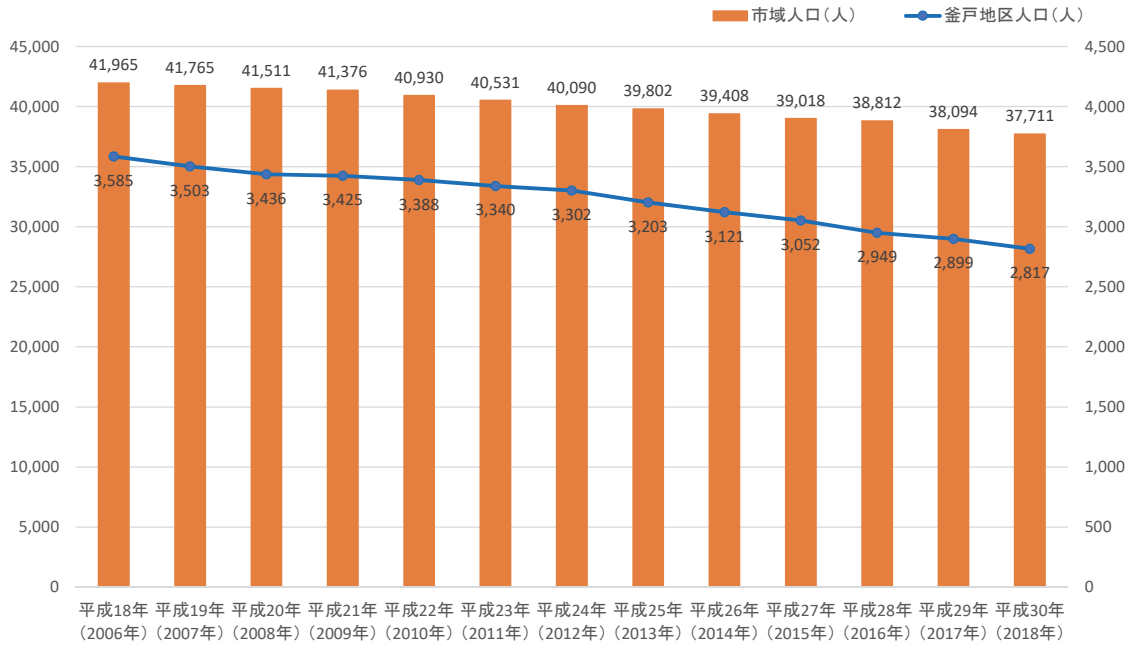
2.1 釜戸地区の人口増減と住みやすさ

1) 人口増減

全国的な傾向と同様に、瑞浪市においても人口減少が進んでおり、平成 30 年（2018 年）の人口は 37,711 人、釜戸地区は 2,817 人となっています。

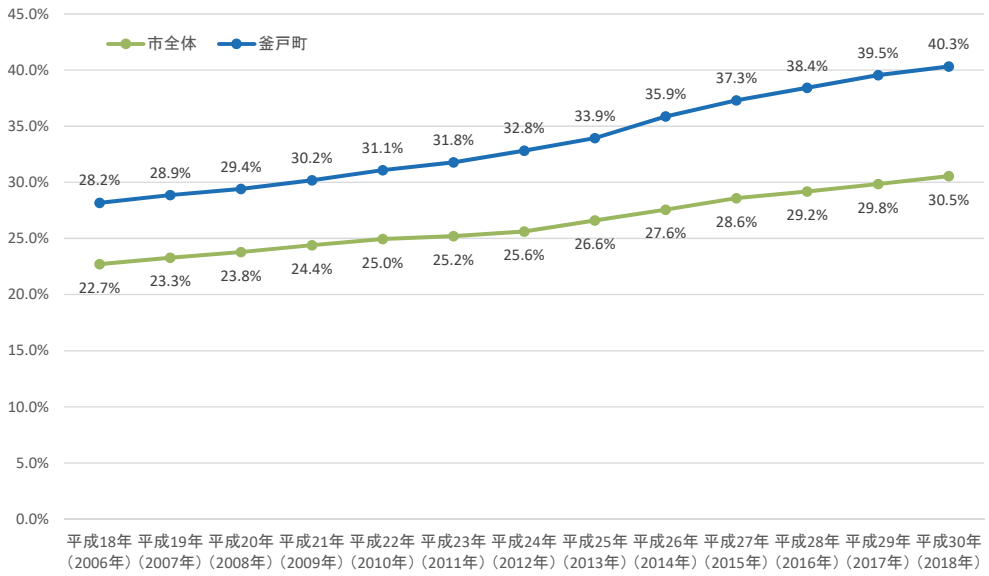
平成 30 年（2018 年）の高齢化率では、瑞浪市において 30.5%となっていますが、釜戸地区では 40.3%と、市域の中でも一段と高齢化が進行している地区です。

このままでは、釜戸地区は今後急速に人口減少が進むこととなり、その後追随するように瑞浪市の全域で、人口減少・地域活力が低下していくことが懸念されます。



図表 1　市域人口と釜戸地区人口割合の推移

出典：瑞浪市統計データ

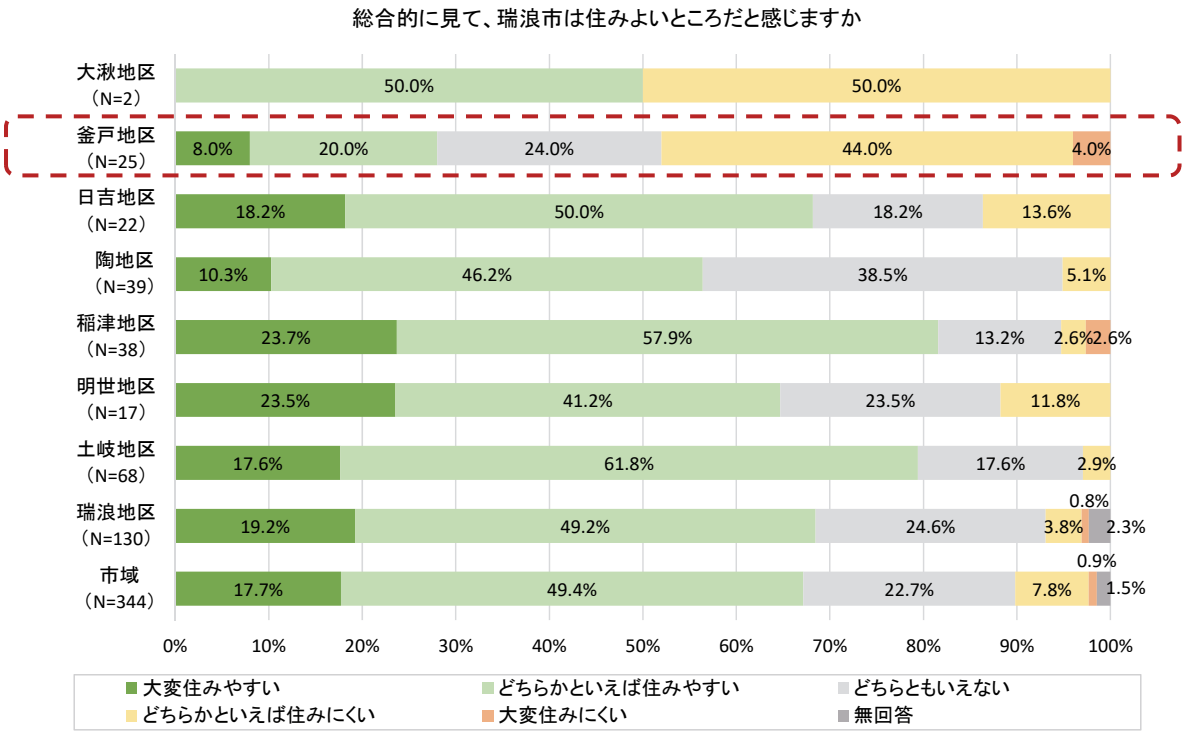


図表 2　高齢化率の推移

出典：瑞浪市統計データ

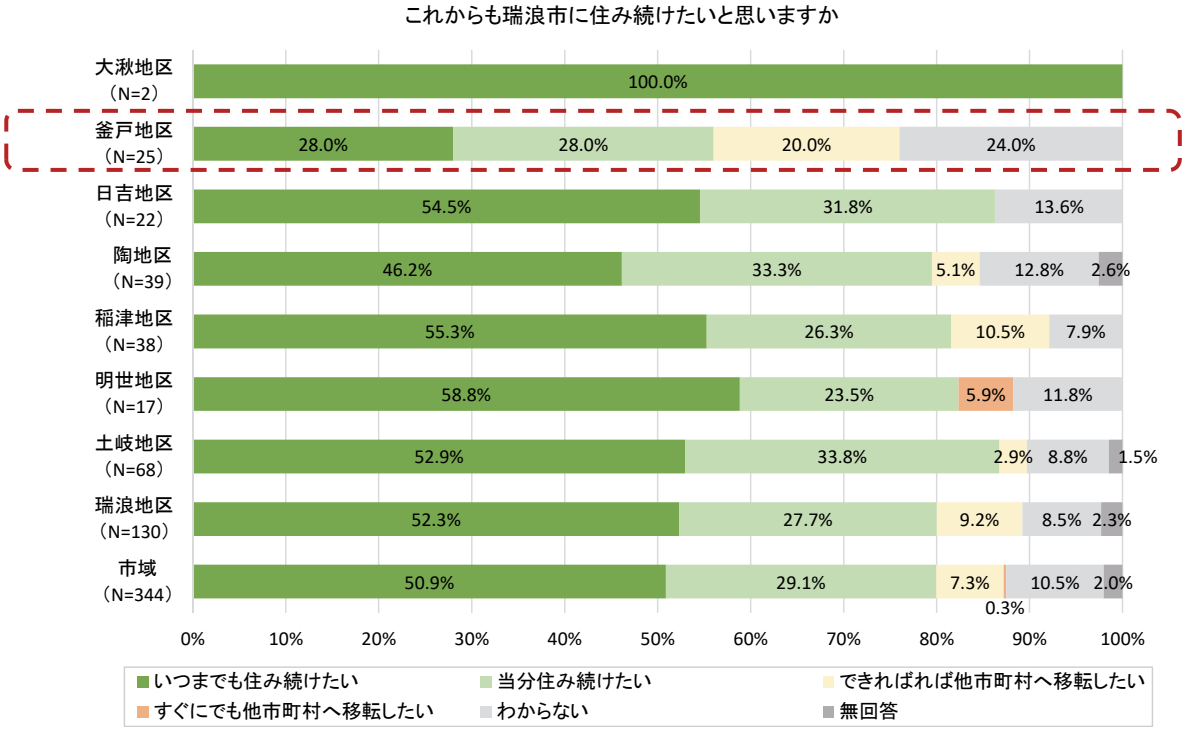
2) 釜戸地区の住みやすさ

平成 29 年度（2017 年度）に実施した市民アンケートにおいて、釜戸地区は、瑞浪市を住みよいところだと感じている割合（大変住みやすい＋どちらかといえば住みやすい）が他の地区と比べて低くなっており、加えて、これからも住み続けたいと考えている割合（いつまでも住み続けたい＋当分住み続けたい）も低くなっています。



図表 3　居住の満足度

出典：平成 29 年度　瑞浪市民アンケート



図表 4　定住意向

出典：平成 29 年度　瑞浪市民アンケート

また、釜戸・大湫地区住民アンケート（P9 に詳細を記載）でも釜戸・大湫地区の住みやすさを回答していただきました。

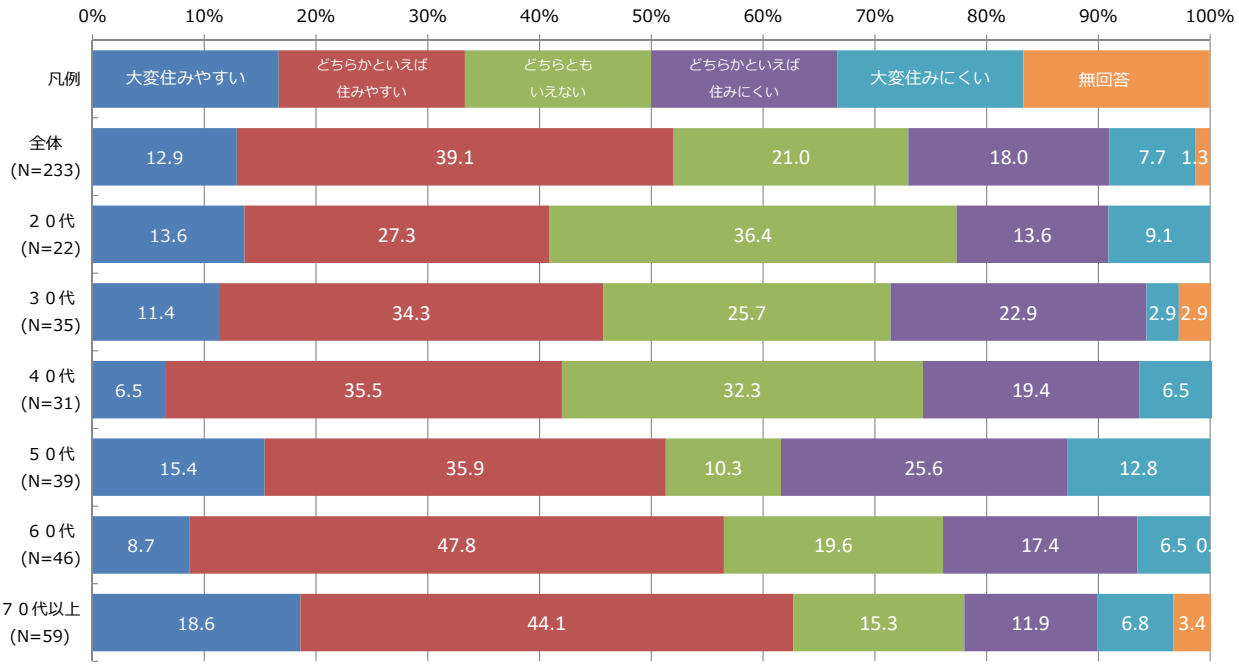
その結果、住みやすいと感じている割合（大変住みやすい＋どちらかといえば住みやすい）は約 50%で、市民アンケートでの釜戸地区の結果より割合は増えていますが、市民アンケートの「市域（約 80%）」と比較すると、やはりその割合は低くなっています。

また、住みにくいと感じている割合（大変住みにくい+どちらかといえば住みにくい）は、約 25%で、市民アンケートの「市域（約 9%）」と比較するとその割合は高くなっています。

市民アンケートの釜戸地区の回答、釜戸・大湫地区住民アンケートの回答はともに、市民アンケートの市域全体の回答と比較すると、住みやすいと感じる割合が低く、住みにくいと感じる割合が高い傾向となりました。

【釜戸・大湫地区の住みやすさに関する設問】

総合的にみて、現在あなたがお住まいの地区は住みやすいところだと感じますか。



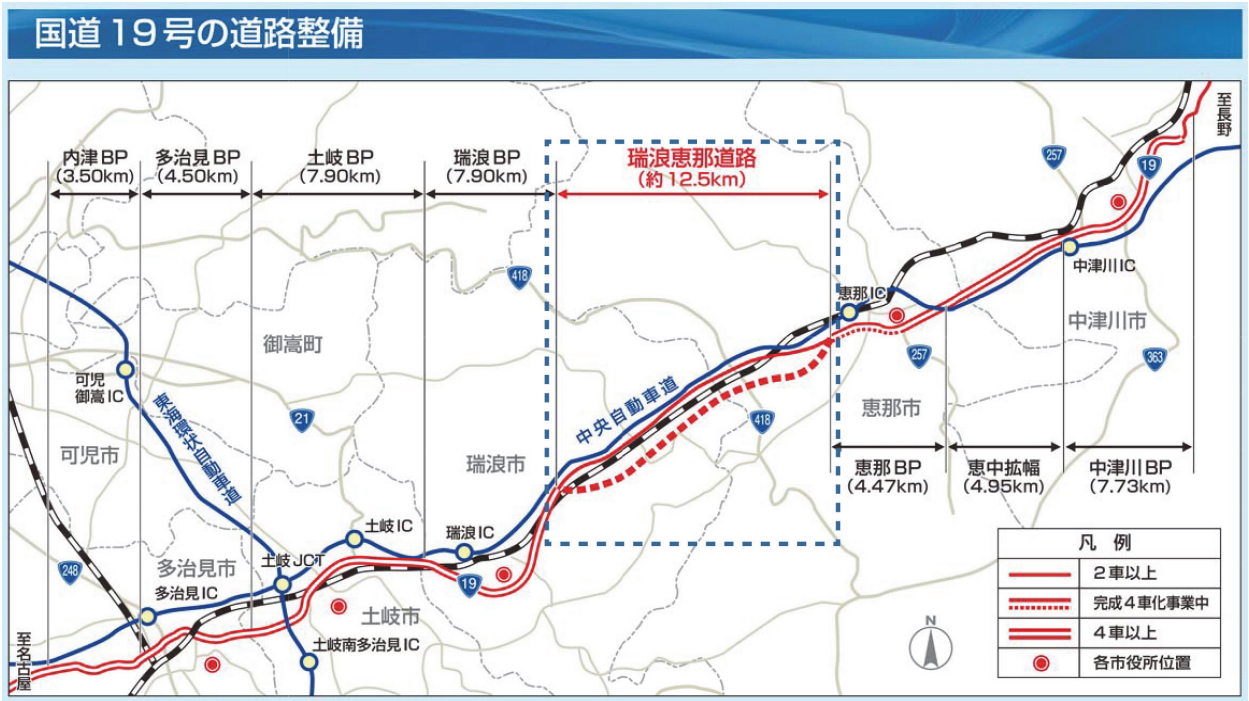
図表 5　居住の満足度

出典：釜戸･大湫地区住民アンケート

2.2 国道 19 号瑞浪恵那道路の概要

国道 19 号（国土交通省中部地方整備局多治見砂防国道事務所）は、名古屋市を起点とし、岐阜県東部（東濃地方）を通過して長野市に至る、延長約 270 kmの幹線道路です。

道の駅の計画にあたって隣接することを予定している国道 19 号瑞浪恵那道路は、瑞浪市と恵那市を結ぶ延長約 12.5 kmの区間で、渋滞・事故等の解消や、リニア中央新幹線の開業時（平成 39 年（2027 年）予定）の地域振興に寄与するもので、平成 30 年（2018 年）4 月に全区間事業化されています。



事業名	内津バイパス	多治見バイパス	土岐バイパス	瑞浪バイパス	瑞浪恵那道路	恵那バイパス	恵中拡幅	中津川バイパス
区間	愛知県春日井市内津町 ～岐阜県多治見市池田町	岐阜県多治見市池田町 ～同市生田町	岐阜県土岐市土岐津町 ～同市泉町	岐阜県瑞浪市明世町 ～同市土岐町	岐阜県瑞浪市土岐町 ～岐阜県恵那市長島町	岐阜県恵那市長島町 ～同市大井町	岐阜県恵那市大井町 ～岐阜県中津川市千旦林	岐阜県中津川市千旦林 ～同市落合
延長	3.50km	4.50km	7.90km	7.90km	約12.5km	4.47km	4.95km	7.73km
構造規格	3種2級	地方部3種2級 市街部4種1級	地方部3種2級 市街部4種1級	地方部3種2級 市街部4種1級	3種2級	地方部3種2級 市街部4種1級	3種2級	3種2級
車線数・幅員	4車線　W=25m	4車線　W=23m	4車線　W=23m	4車線　W=23m	4車線 W=16.25m	4車線　W=25m	4車線　W=25m	4車線（一部3車線） W=21.5m(バイパス区間) W=25.0m(現拡区間)
設計速度	60km/h	60km/h	60km/h	60km/h	60km/h	60km/h	60km/h	60km/h
事業化	昭和44年度	昭和39年度	昭和38年度	昭和44年度	平成27年度、平成30年度	昭和43年度	昭和59年度	昭和46年度
都市計画決定	昭和56年11月	昭和43年4月	昭和49年10月	昭和52年4月	平成26年4月	昭和45年3月	昭和53年1月	昭和47年3月 （バイパス区間）
暫定2車線供用	昭和45年度	昭和46年度	昭和46年度	昭和62年度	—	昭和48年度	昭和38年度	昭和60年度
完成4車線供用	平成6年度	昭和49年度	昭和51年度	平成11年度	—	—	平成25年度	平成17年度

出典：国土交通省　中部地方整備局　多治見砂防国道事務所

2.3 釜戸地区の現況

道の駅の計画地周辺では、竜吟湖や水晶山などの豊かな自然や、大湫宿、釜戸温泉・白狐温泉等の観光資源がある一方で、周辺住民にとっては、人口減少・高齢化が著しく、子育て世代の流出・空き家の増加や、駅前でありながら日常生活に必要な買い物をする場がないことなど、将来的なまちづくりを考えるうえで課題を有しています。

図表 6　道の駅の計画地周辺の現況

2.4 道の駅に関する意向把握

1) 地域活性化の拠点（道の駅）のありかた

釜戸・大湫地区のみなさんを中心に参加いただき、まちづくりの視点から地域活性化の拠点（道の駅）の整備にあたりご議論いただくために、ワークショップを開催しました。

(1) 第１回「釜戸地区の現状についてみんなで話し合おう」（H30.5.26）

第１回は瑞浪市や釜戸地区の現状や社会潮流等を説明したうえで、参加者の皆さんに釜戸地区の好きな点と問題点についてざっくばらんにご意見をいただきました。

釜戸地区の好きな点について多くのご意見をいただきましたが、人口減少や高齢化など、地区の将来を考えると、問題点も少なくないということを認識したワークショップでした。

＜参加者のみなさんの主なご意見＞

好きな点	問題点
・住民にまとまりがあり、地域活動も盛ん、また子どもの見守りなども積極的 ・駅があるので人を呼び込める ・普通に住みやすい ・自然が豊かであり、街道沿いに歴史が残っている	・若者・子どもの流出や一人暮らし高齢者の増加、空き家の増加 ・買い物できる店がほぼなく、また、通院等も車がないと不便 ・特産もなく、温泉が出ているのに活かせておらず、地域の目玉がない

ワークショップの様子

(2) 第２回「釜戸地区を歩きながら、良い点や改善すべき点を探してみよう」（H30.6.9）

梅雨の晴れ間のなか、実際に計画地周辺を歩きながら、「暮らしの視点」や「人を呼び込む視点」から気になった点について写真を撮っていただき、地図上に整理していただきました。

まちあるきのとりまとめ結果

まちあるきの様子

＜参加者のみなさんの主なご意見＞

・釜戸駅と計画地間に点在する**様々な資源の発掘**や、**佐々良木川の水辺利用**のほか、**竜吟の滝や水晶山への周遊を促す仕掛け作り**が必要といったご意見をいただきました。

(3) 第３回「釜戸地区の将来像について考えよう」（H30.6.23）

第３回は、中京高校の学生のみなさんにも参加いただき、釜戸地区の将来像を考えていただきました。

とりまとめ結果

＜参加者のみなさんの主なご意見＞

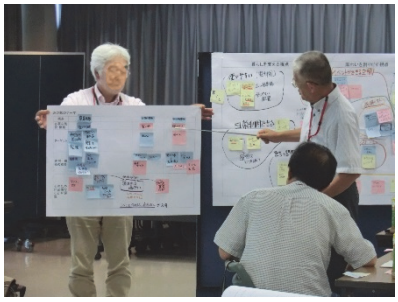
・釜戸地区が将来にわたって**「人が住み続けている」**ためには**「日常的な買い物ができること」**や**「子どもが安心して遊べる公園」**が必要といったご意見をいただきました。また、**「釜戸を訪れる人を増やす」**ためには、**「農を活かした賑わいの仕掛けづくりと特産品づくり」**、**「空き家を活用したイベント開催」**といった具体的なご意見をいただきました。

・このような将来像の実現には、交通環境の改善やSNS などを活用した情報発信も重要というご意見をいただきました。

(4) 第４回「地域活性化の拠点のあり方について考えよう」（H30.8.25）

これまでの釜戸地区の現状の議論を踏まえ、地域活性化の拠点（道の駅）について、「暮らしを支える視点」と「賑わいを創り出す視点」に分けて、具体的な施設のあり方や必要な取組み等について意見をいただきました。

その後、具体的な施設や取組み等についてどのような施設・取組みなのか、また、必要なことや課題は何かについて話し合いました。



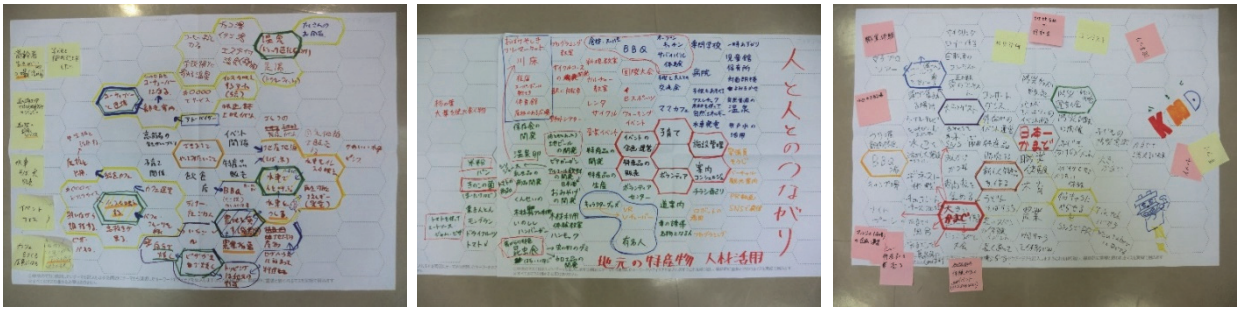
ワークショップの発表の様子

＜参加者のみなさんの主なご意見＞

・暮らしを支える視点では、スーパーやドラッグストア、日用品を購入できる施設等、買い物ができる場所についての意見が多く、また、介護施設や診療所、子どもの遊び場などの意見もありました。
・さらに、地域コミュニティの醸成につながるような、誰もが気軽に集える憩いの場や居場所づくり等の意見もありました。
・賑わいを創り出す視点では、釜戸の地域特性を生かした多様な体験プログラム、地元食材を活かした飲食店、特産品の開発・販売、アクティビティやイベントの充実、温泉施設などの意見がありました。

(5) 第５回「地域活性化の拠点（道の駅）との関わり方を考えよう」（H30.9.29）

10 年後に地域活性化の拠点（道の駅）が整備されたら、どのようにこの施設に関わっていきたいか、できること、やってみたいことについて、連想ゲーム形式でアイデア出しを行いました。



連想ゲーム形式によるアイデア出しの結果

ワークショップの様子

＜参加者のみなさんの主なご意見＞

・関わり方として最初に出てきた意見としては、いずれのグループにおいても、イベントの企画・運営、子育て関係、特産品の販売などが挙げられていました。
・また地元の団体と団体をつなぐアドバイザーとして関わりたいという意見もありました。
・連想ゲームの中では、農地を貸す（貸農園）、農業指導、ママカフェやカフェ運営、SNS やチラシを活用した観光案内（情報発信）、警備や掃除等の施設管理、特産品の開発・生産などについて具体的な内容が挙げられていました。

2) 道の駅に求める機能

地域活性化の拠点（道の駅）のあり方や整備について市民や道路利用者等のニーズを把握するため、以下のアンケート調査を行いました。

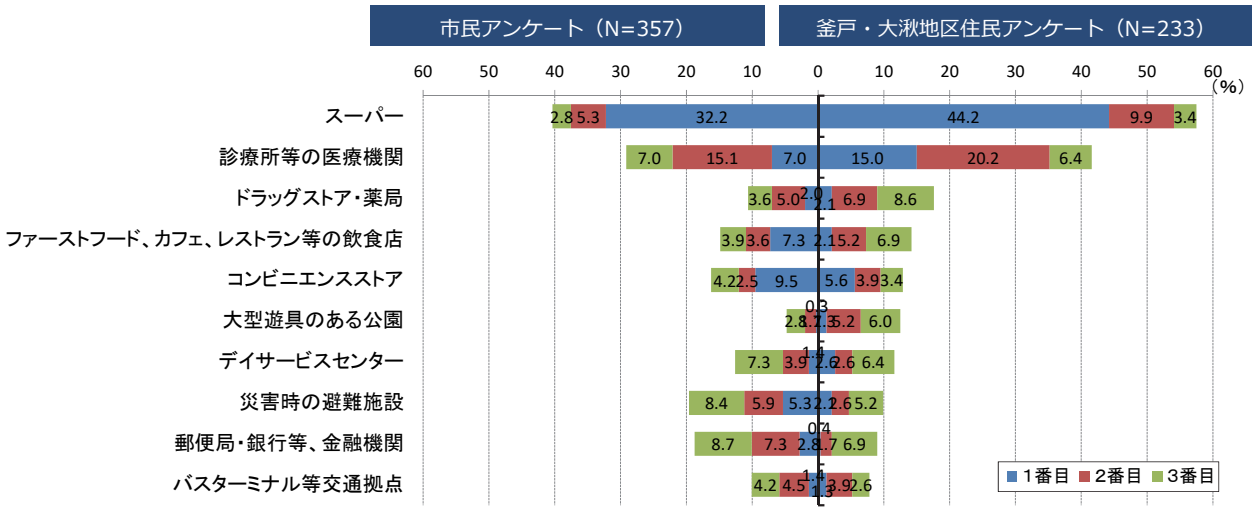
図表 7　アンケート調査の概要

アンケート調査	瑞浪市市民生活の現状についてのアンケート	釜戸・大湫地区住民アンケート	近隣県在住者アンケート
調査目的	地域活性化の拠点（道の駅）の整備について、①生活の拠点として必要な機能、②観光の拠点として必要な機能について、市民意向を把握することを目的として実施。	地域活性化の拠点（道の駅）のあり方について、計画地周辺の釜戸及び大湫地区住民の意向を把握することを目的として実施。	地域活性化の拠点（道の駅）として、道路利用者ニーズについて、潜在的観光客の視点から、本市の道の駅に望ましい導入機能を把握することを目的として実施。
調査方法	・地域：全市域 ・対象：市内に居住する 20 歳以上の市民、1000 人 ・抽出方法：住民基本台帳による無作為抽出 ・調査方法：総合計画の現状値や目標値を把握する「瑞浪市市民生活の現状について」のアンケートに、追加設問を行うことで実施。（郵送によるアンケート調査）	・地域：釜戸地区・大湫地区 ・対象：20 代～70 代以上の各世代 100 人の合計 600 人 ・抽出方法：住民基本台帳による無作為抽出 ・調査方法：郵送によるアンケート調査	・地域：長野県、岐阜県、愛知県 ・対象：上記地域に居住する 18 歳以上の方を対象に、各県 300 人ずつ（瑞浪市への来訪経験がある方 150 件、ない方 150 件）、計 900 件を回収目標 ・調査方法：インターネット（WEB）によるアンケート調査
実施期間	平成 30 年（2018 年） 4 月 2 日（月）～ 4 月 30 日（月）	平成 30 年（2018 年） 5 月 16 日（水）～ 6 月 1 日（金）	平成 30 年（2018 年） 9 月 20 日（木）～ 9 月 27 日（木）
配布数 有効回答数 回収率	配布数：1,000 票 有効回答数：357 票 回収率：35.7%	配布数：600 票 有効回答数：233 票 回収率：38.8%	長野県：376 件 岐阜県：371 件 愛知県：369 件 有効回答数：1,116 票

(1) 市民アンケート、釜戸・大湫地区住民アンケートの結果

【地域住民としての視点】

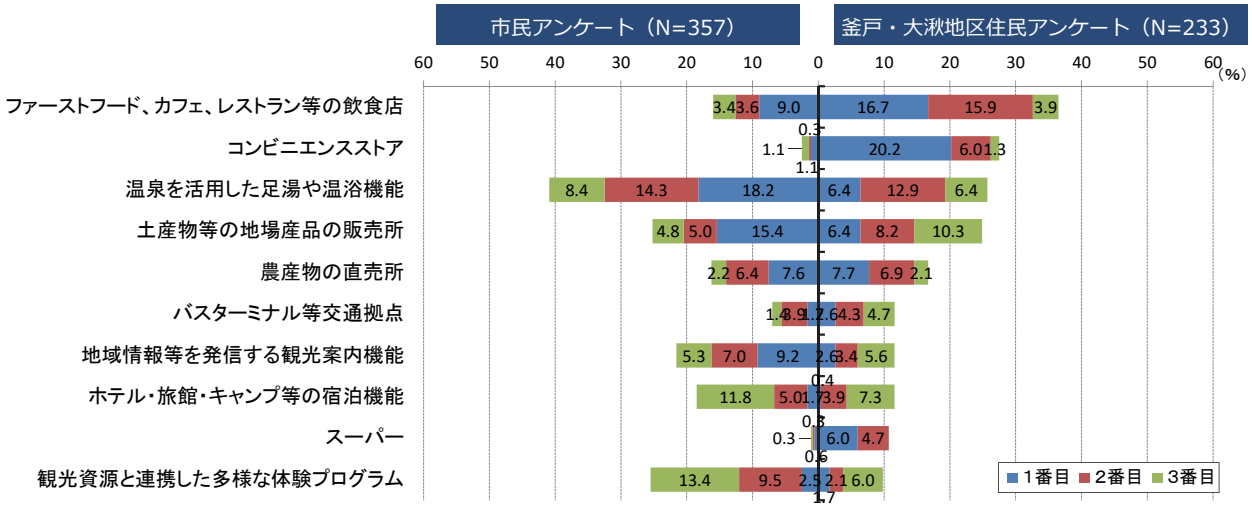
いずれの調査からも「スーパー」「診療所等」が上位となっていますが、特に「スーパー」「診療所等」については住民アンケートで、「避難施設」については市民アンケートで多くなっており差が見られます。



図表 8　地域住民としての視点で必要な施設・機能（アンケート上位の回答）

【道路利用者としての視点】

市民アンケートで「温浴機能」「体験プログラム」が上位となっていますが、住民アンケートでは、「飲食店」「コンビニエンスストア」が上位となっています。

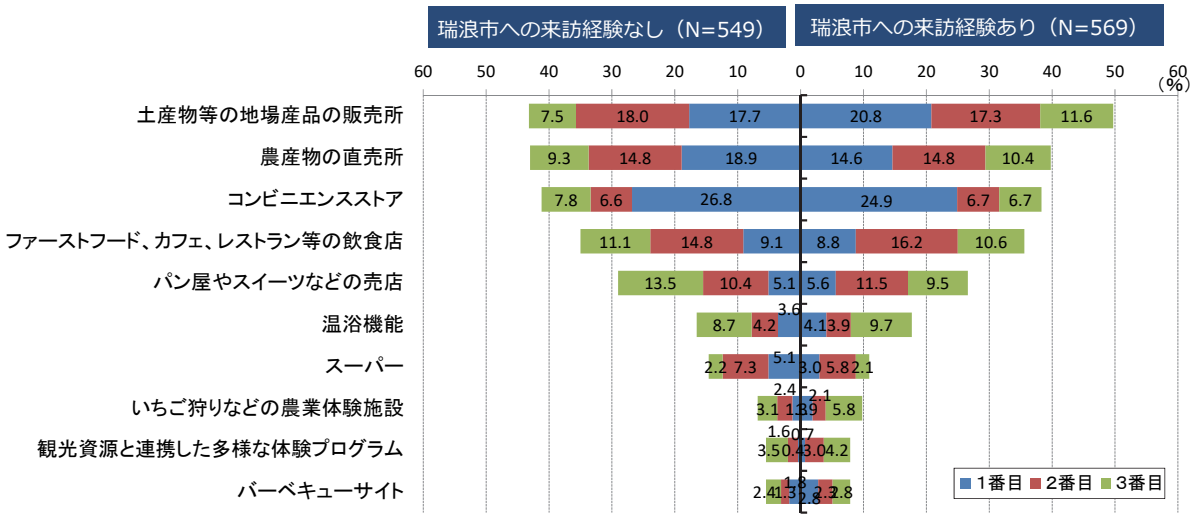


図表 9　道路利用者としての視点で必要な施設・機能（アンケート上位の回答）

(2) 近隣県在住者アンケートの結果

1 番目に選んだ最も利用したいと思う施設・機能では、来訪経験が「ある」では、「コンビニエンスストア」が 24.9%で最も多く、次いで「土産物等の地場産品の販売所」20.8%、「農産物の直売所」が 14.6%となっているが、来訪経験が「なし」では、「コンビニエンスストア」が 26.8%で最も多く、次いで「農産物の直売所」が 18.9%、「土産物等の地場産品の販売所」が 17.7%となっています。

1 番目から 3 番目までの合計で見ると、来訪経験の有無によらず、いずれも最も多いのが「土産物等の地場産品の販売所」、次いで「農産物の直売所」、「コンビニエンスストア」と続きますが、その割合には差があります。



図表 10　道の駅で利用したいと思う施設（アンケート上位の回答）

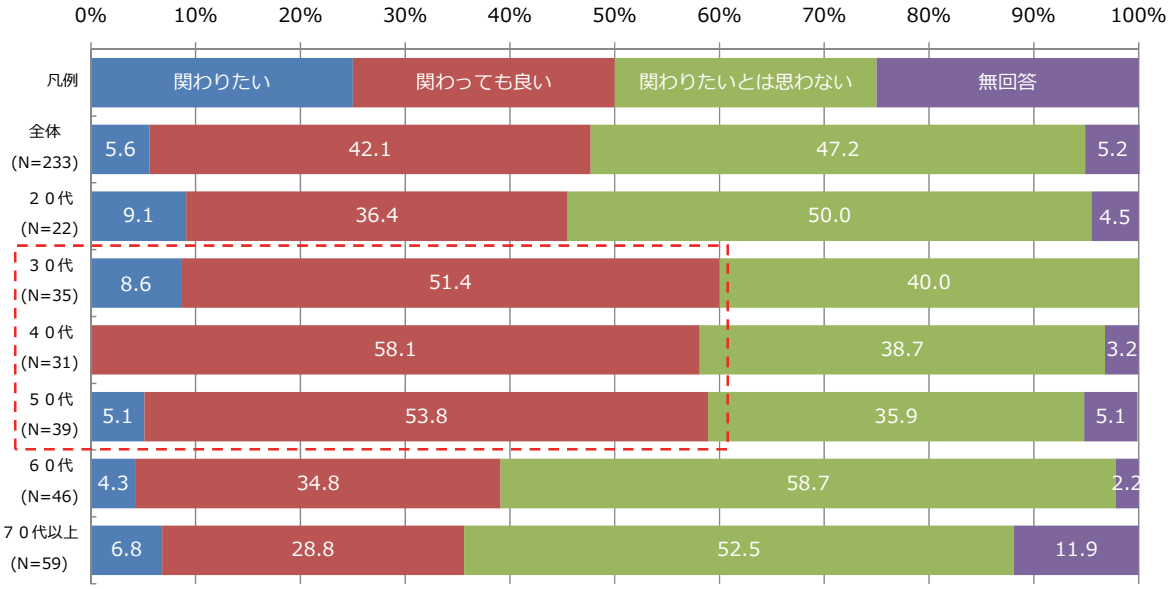
3) 地域活性化の拠点との関わり方について

釜戸・大湫地区住民アンケートでは、計画されている道の駅との関わり方についても調査しました。

(1) 地域活性化の拠点運営への関与

「関わりたいとは思わない」の割合が 47.2%、「関わりたい」と「関わっても良い」を合わせると 47.7%と、地域活性化の拠点運営への関わり方については意見が拮抗しています。

年代別では、30 代、40 代、50 代では、「関わりたい」と「関わっても良い」を合わせた割合が半数以上と高くなっています。



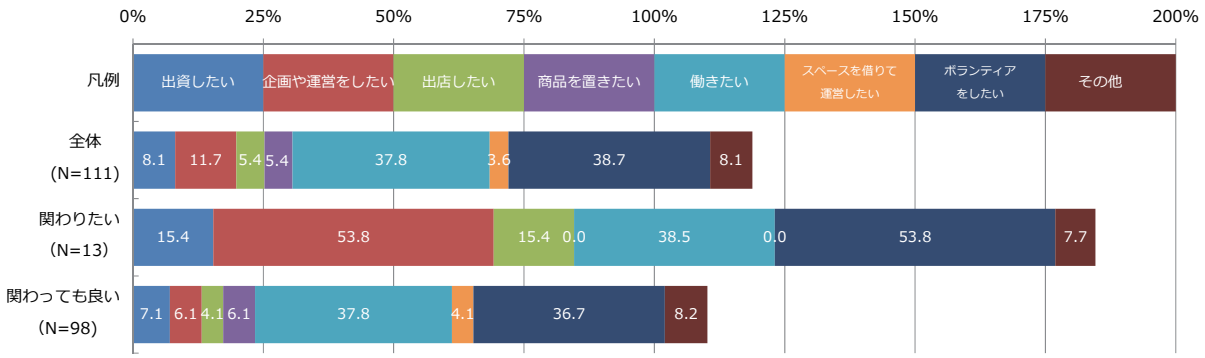
図表 11　年代別地域活性化拠点運営への関与

(2) 地域活性化の拠点運営への具体的な関わり方

「関わりたい」「関わっても良い」と回答した人の具体的な関わり方は、全体では「ボランティアをしたい」と回答した人の割合が 38.7%と最も高く、次いで「働きたい」と回答した人の割合が 37.8%となっています。

「関わりたい」と回答した人は、「企画や運営をしたい」「ボランティアをしたい」が多くなっています。さらに、「出資したい」「出店したい」についても 15.4%となっています。

「関わっても良い」と回答した人は、「働きたい」「ボランティアをしたい」が中心となっています。



図表 12　拠点運営への具体的な関わり方

このように、道の駅への出店や企画・運営、イベント運営等へのボランティアとしての参加に加え、出資など、何らかの方法で、主体的に関わりたいという意向が確認できます。

（余白）

3 瑞浪市のまちづくりにおける道の駅検討の過程

道の駅の導入機能について、釜戸地区周辺におけるまちづくりの観点と住民意向や実際のニーズを把握しながら、次の流れで検討を行いました。

■今後 10 年を見据えた主な社会潮流

○全国的に人口減少・超高齢社会が更に進行するなかで、瑞浪市においても人口減少・超高齢社会の進行が懸念される。

○産業の衰退やコミュニティの崩壊が進む中で、瑞浪市においても、郊外の商業機能を中心に産業が衰退しており、地域活力の低下（地域格差が加速）が懸念される。

○リニア中央新幹線開業に伴い、名古屋への求心力の増大、長野県南部や山梨県等との交流拡大が予測され、また、オリンピックを契機としたインバウンド観光が期待されることから、瑞浪市においてもこれらを踏まえたまちづくりを考えていくことが求められている。

○社会資本の更新を迎える中で、自然災害への不安が高まっており、瑞浪市においても南海トラフにおける巨大地震の発生や、集中豪雨や河川の氾濫等による大規模水害などに対する災害対策が急務となっている。

■上位計画（総合計画、都市計画マスタープラン）における計画地周辺の位置づけ

○地域拠点：

・公共施設や日常的な商業施設が集積し、地域の生活やさまざまなコミュニティ活動がしやすい地区として活性化する（地域の中心となるコミュニティ施設の整備・充実や生活利便施設の誘導）。

・土岐川の親水空間整備や、新たな近隣公園の整備など公共空間を整備推進する。

○交流拠点：道の駅等の実現化に向けて検討する。

○集落・農業地区に位置づけられており、自然と調和する快適な生活環境や地域内外の多様な交流の推進を図る地区となっている。

■道の駅に導入してほしい機能（ワークショップ、アンケートより）

【釜戸地区の住民の暮らしを支える】

①安心して暮らせる

○交通機能 ⇒交通手段、公共交通
○商業機能 ⇒スーパー、コンビニ、日用品が購入できる施設、多様な商店・飲食店
○医療・福祉機能 ⇒診療所、介護施設等
○防災機能 ⇒避難施設、備蓄倉庫
○子育て支援機能 ⇒子どもが安心して遊べる公園や児童館
○地域コミュニティ機能 ⇒居場所づくり、憩いの場、温泉

②暮らしの質を高める

○レクリエーション機能 ⇒温泉、自分の特技等を発表できる場、カルチャー教室

【釜戸地区に賑わいを創りだす】

①資源を活かす

○レクリエーション機能 ⇒自然に囲まれたBBQ場、上平用水や佐々良木川を活かした水辺空間、多様なアクティビティ、温泉、農業等と連動した体験プログラム

②個性を創りだす

○商業機能 ⇒特産品の開発、特産品を活用した土産販売やカフェやビアガーデン等の飲食店
○イベント機能 ⇒地元の祭りとの連携、音楽やアート等多様なイベントの実施

③交流を生み出す

○交流機能 ⇒温泉（日帰り・足湯）、交流拠点づくり（BBQ場、キャンプ等）
○情報発信機能 ⇒移住・定住窓口、地域情報・観光情報の発信
○宿泊機能 ⇒キャンプ、素泊まり

【施設の運営に地域が主体的に関わる】

○道の駅への出店や企画・運営、イベント運営等へのボランティアとしての参加に加え、出資など、何らかの方法で、主体的に関わりたいという意向が確認でき、地域主体での運営の可能性を有する。

○道の駅で働きたい、ボランティアをしたいという意向が確認でき、地域の雇用の場等としての役割も担う。

■道の駅に導入する機能（近隣県在住者アンケート）

○道の駅を利用する主な目的
⇒トイレを利用するときが最も多く、次いで食事・お茶等を取りたいとき、お土産・特産品を買うとき、野菜等の産直品等を買うときとなっている。

○瑞浪市の道の駅として利用したい施設・機能
⇒コンビニエンスストア、土産物等の地場産品の販売所、農産物の直売所、ファーストフード、カフェ、レストラン等の飲食店、パンやスイーツなどを販売する店など、住民にとっても利用が見込める、日常的な飲食や物販等の機能が望まれている。

■道の駅に導入する機能（事業者ヒアリング）

○温浴施設について
⇒道の駅の核施設とする場合、民間事業者が施設整備費を負担することは、現状では難しいと考えられる。
⇒人口が減少する地方都市において、競合施設が多数あるなかで、広報活動も相当力を入れる必要があり、また、泉質が命なので、相当よくないとリピーター確保は難しい。
⇒周辺自治体の観光施設まで含めて、連携して誘客することが必要である。

○農産物等直売所について
⇒現在瑞浪市にある、農産物等直売所「きなぁた瑞浪」では、生産者からの出荷量が少なく、また、高齢化と相まって今後の生産量増大は見込めず、両施設の共倒れが懸念される。

計画地周辺のビジョン（10 年後にめざすまちの姿）

道の駅の機能の検討（道の駅として担うべき役割の検討）

図表 13 道の駅の機能検討の過程

（余白）

4 計画地周辺のビジョン

4.1 10 年後にめざすまちの姿

これまでの検討結果から、10 年後にめざすまちの姿を、次のように考えます。

住民のたまり場となる　“釜戸の暮らしの拠点”

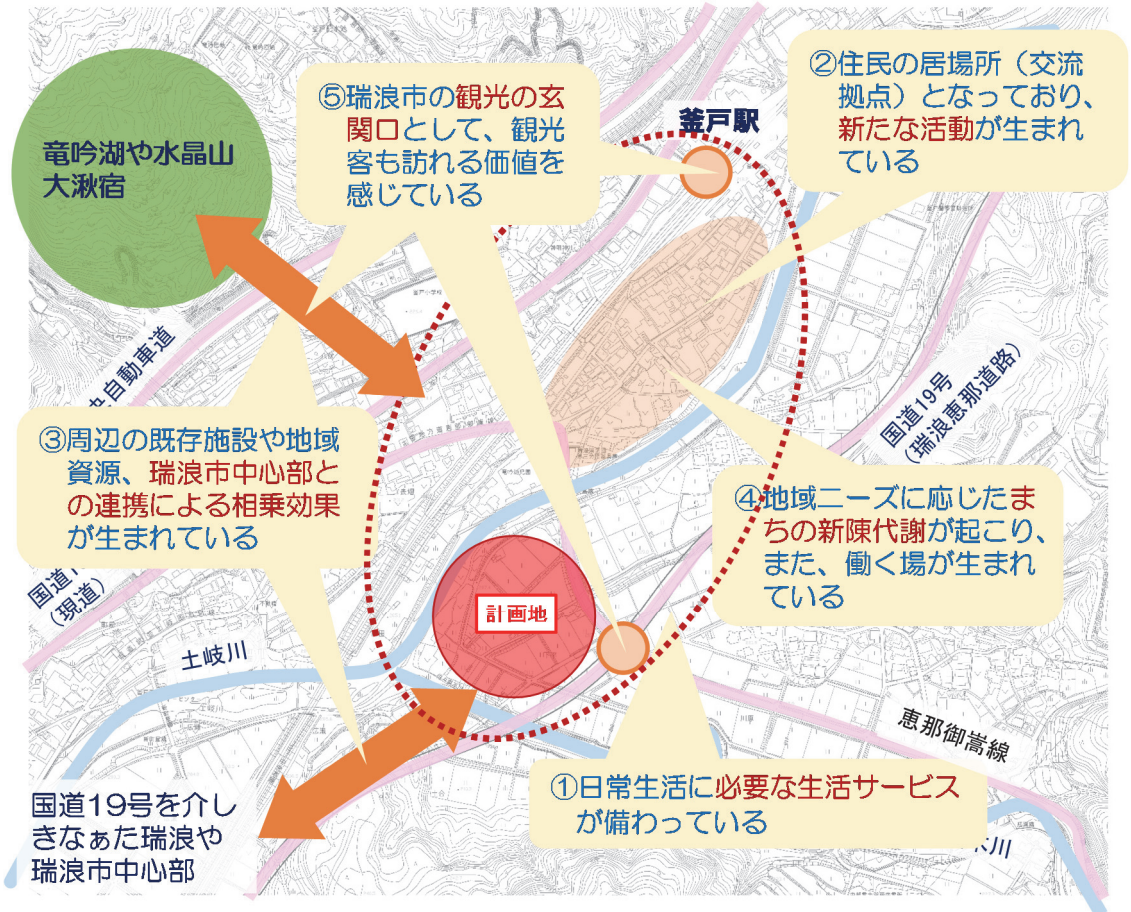
瑞浪市及び釜戸地区を取り巻く環境が大きく変化するなかで、10 年後であっても計画地周辺が、釜戸地区の暮らしの魅力を継承しつつ、社会ニーズに応じた新たなまちへと展開できるよう、「釜戸の暮らしの拠点」として、具体的には下記の５つの姿の実現をめざします。

まちのビジョン①　日常生活に必要な生活サービスが備わっている
まちのビジョン②　住民の居場所（交流拠点）となっており、新たな活動が生まれている
まちのビジョン③　周辺の既存施設や地域資源、瑞浪市中心部との連携による相乗効果が生まれている
まちのビジョン④　地域ニーズに応じたまちの新陳代謝が起こり、また、働く場が生まれている

国道 19 号瑞浪恵那道路が新たに整備されることから・・・

まちのビジョン⑤　瑞浪市の観光の玄関口として、観光客も訪れる価値を感じている

1) めざすまちの姿

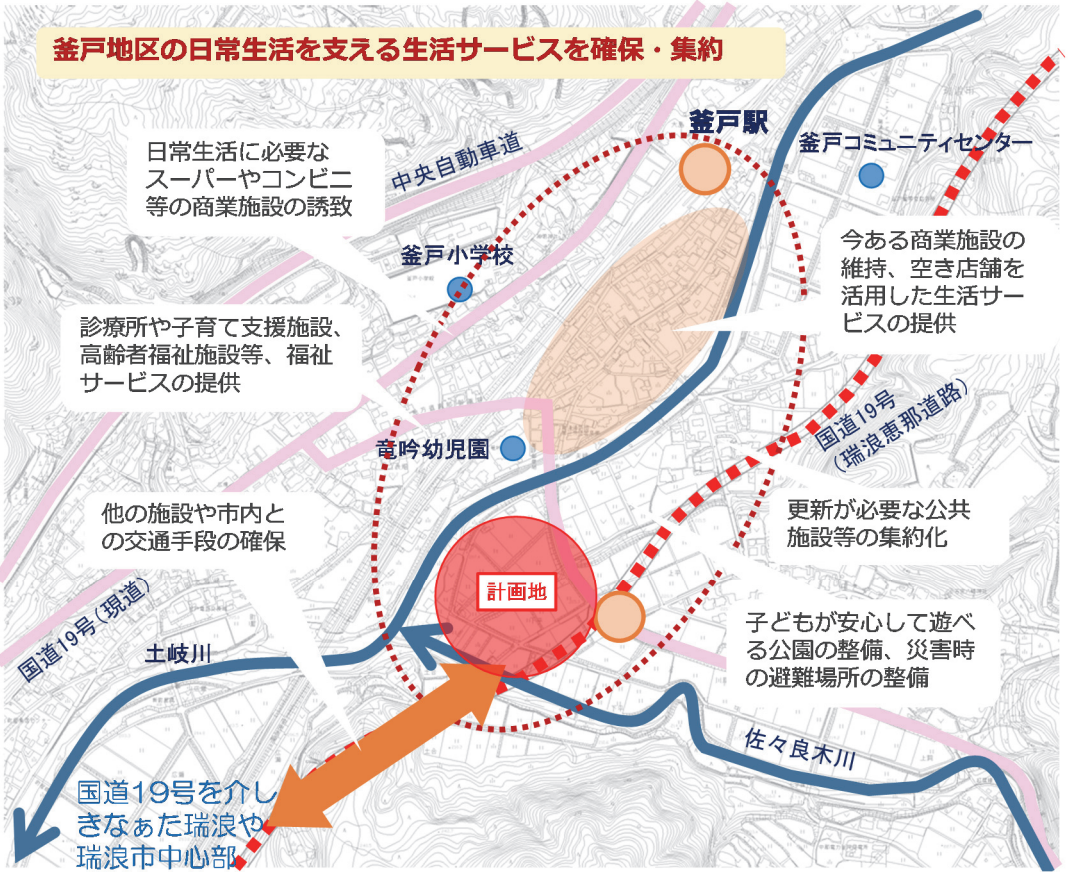


図表 14　まちのビジョン（10 年後にめざすまちの姿）

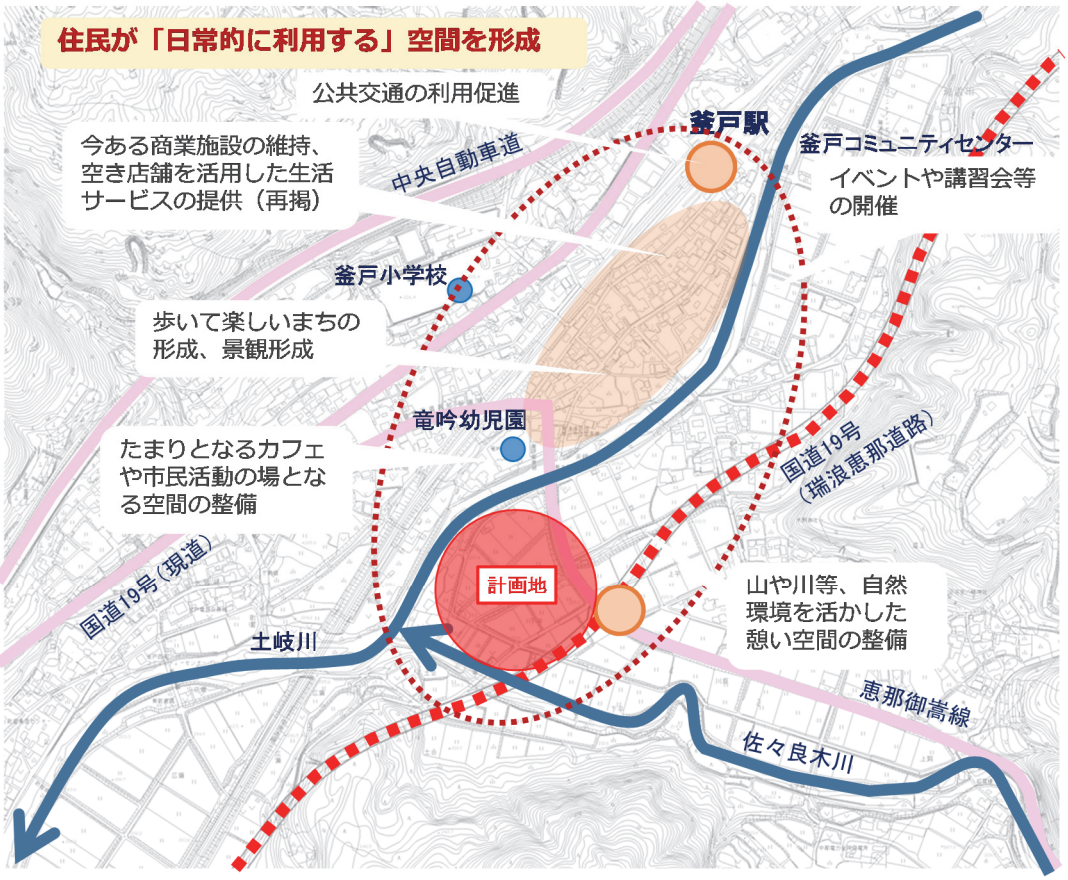
この５つのまちの姿を実現するためには、行政だけでなく地域の人々とともに、時間をかけて取り組む必要があります。

2) めざすまちの姿に向けた取組み例

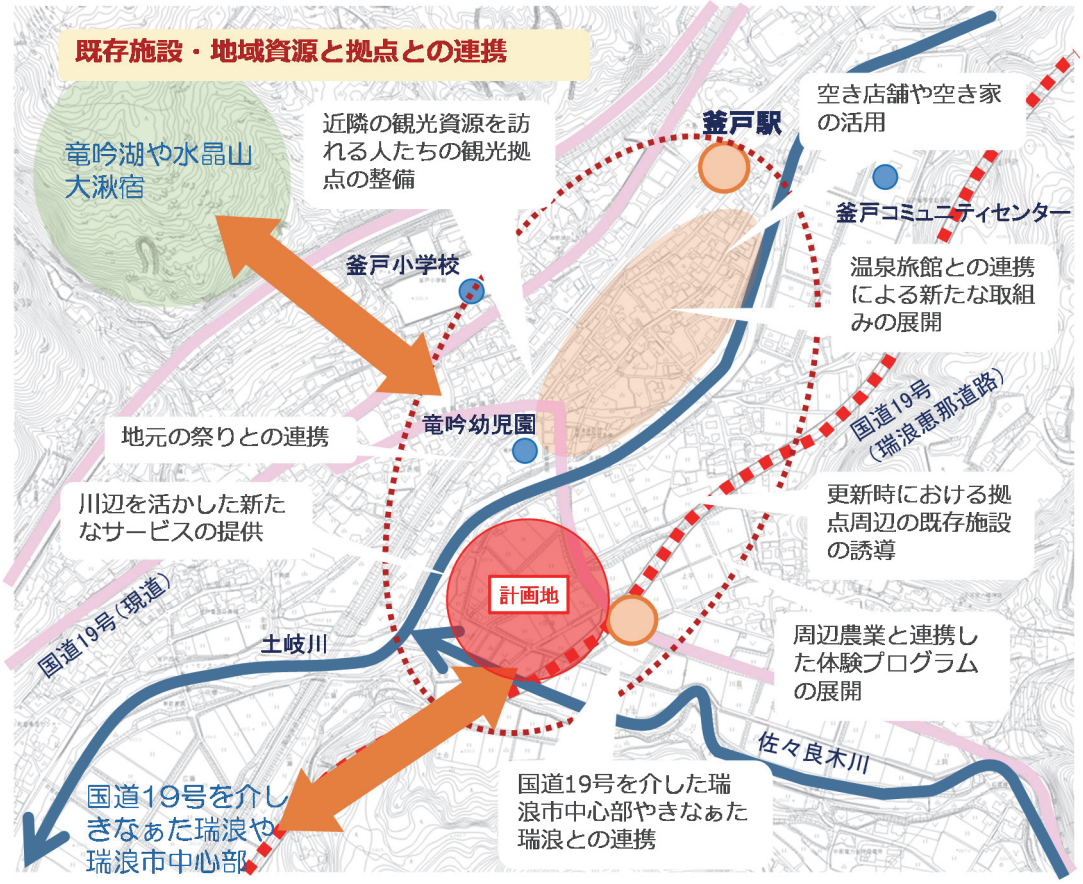
まちのビジョン①　日常生活に必要な生活サービスが備わっている



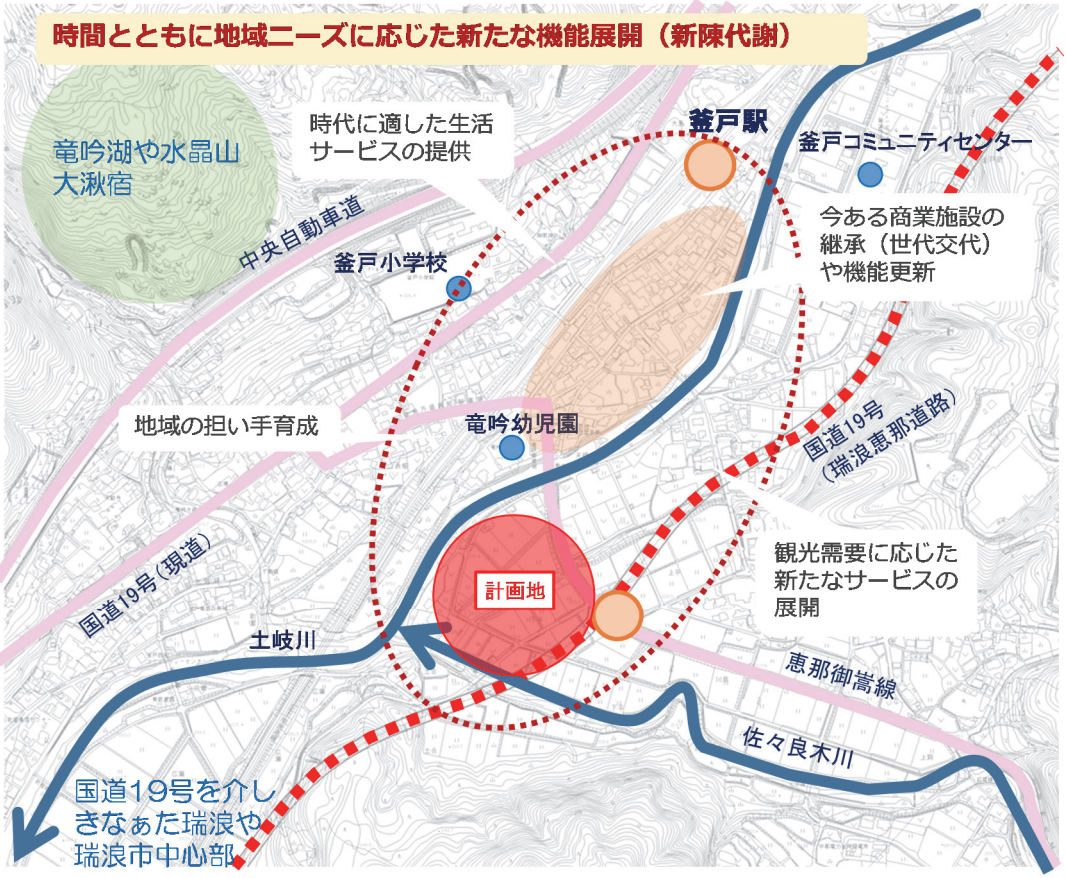
まちのビジョン②　住民の居場所（交流拠点）となっており、新たな活動が生まれている



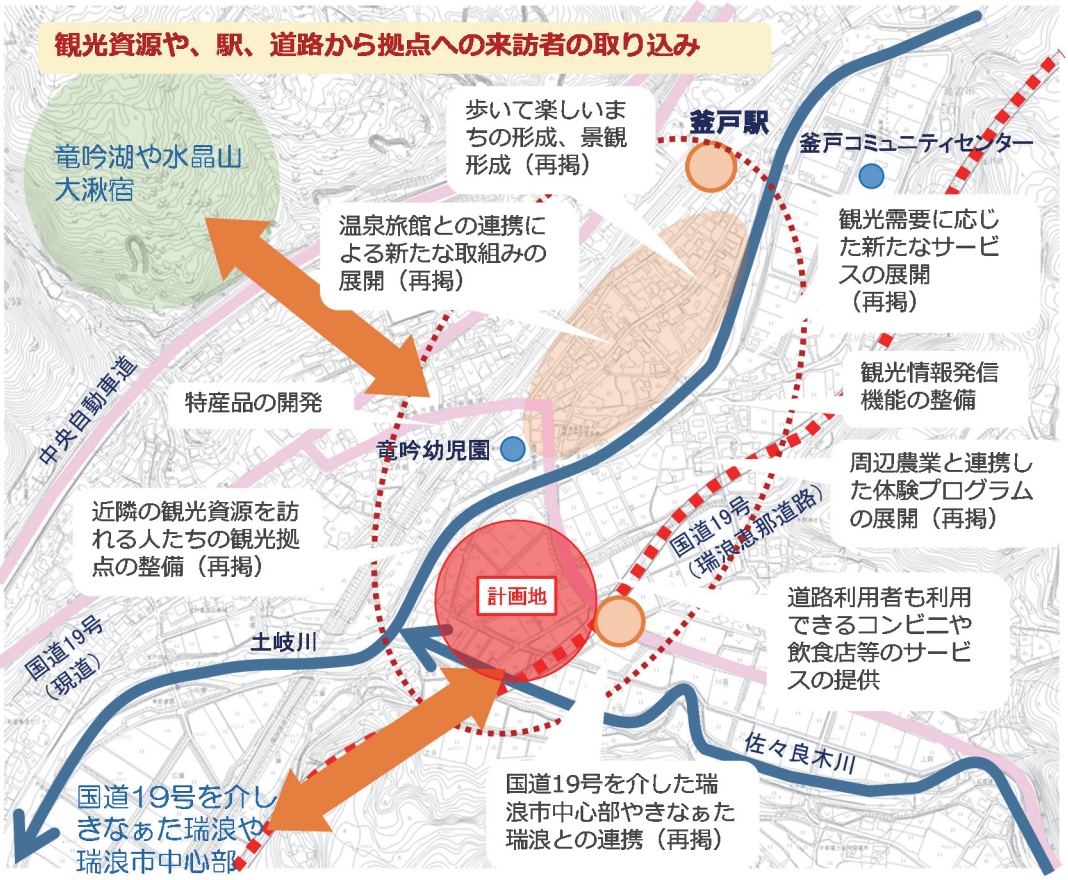
まちのビジョン③　周辺の既存施設や地域資源、瑞浪市中心部との連携による相乗効果が生まれている



まちのビジョン④　地域ニーズに応じたまちの新陳代謝が起こり、また、働く場が生まれている



まちのビジョン⑤　瑞浪市の観光の玄関口として、観光客も訪れる価値を感じている



4.2 実現に向けた取組みと役割分担例

「10 年後にめざすまちの姿」を実現するために、５つのまちのビジョンごとに、必要な取組みを整理しました。さらに、これらの取組みを、役割が異なる４つの主体（「道の駅」「既存施設との連携」「地元の取組み」「行政施策」）で、分担するように整理しました。なお、それぞれの取組み主体は、限られた人材・財源のなかで、数多くの取組みがあることから、できることから選択して取組んでいく必要があります。

表中の（再掲）の表示があるものについては、まちのビジョンの番号が小さいものにおいて既出のものを指しています。

図表 15　取組みと役割分担例

まちのビジョン①日常生活に必要な生活サービスが備わっている					まちのビジョン②住民の居場所（交流拠点）となっており、新たな活動が生まれている					まちのビジョン③周辺の既存施設や地域資源、瑞浪市中心部との連携による相乗効果が生まれている					まちのビジョン④地域ニーズに応じたまちの新陳代謝が起こり、また、働く場が生まれている					まちのビジョン⑤瑞浪市の観光の玄関口として、観光客も訪れる価値を感じている				
	道の駅	既存施設との連携	地元の取組み	行政施策		**道の駅**	既存施設との連携	地元の取組み	行政施策		**道の駅**	既存施設との連携	地元の取組み	行政施策		**道の駅**	既存施設との連携	地元の取組み	行政施策		**道の駅**	既存施設との連携	地元の取組み	行政施策
日常生活に必要なスーパーやコンビニ等の商業施設の誘致	●		●		たまりとなるカフェや市民活動の場となる空間の整備	●		●		更新時における拠点周辺の既存施設の誘導				●	今ある商業施設の継承（世代交代）や機能更新		●	●		近隣の観光資源を訪れる人たちの観光拠点の整備（再掲）	●			
今ある商業施設の維持、空き店舗を活用した生活サービスの提供		●	●		今ある商業施設の維持、空き店舗を活用した生活サービスの提供（再掲）		●	●		国道 19 号を介した瑞浪市中心部やきなぁた瑞浪との連携	●	●			時代に適した生活サービスの提供	●		●		歩いて楽しいまちの形成、景観形成（再掲）		●	●	
診療所や子育て支援施設、高齢者福祉施設等、福祉サービスの提供				●	イベントや講習会等の開催	●		●		近隣の観光資源を訪れる人たちの観光拠点の整備	●				観光需要に応じた新たなサービスの展開	●		●		周辺農業と連携した体験プログラムの展開（再掲）	●		●	
更新が必要な公共施設等の集約化				●	歩いて楽しいまちの形成、景観形成		●	●		空き店舗や空き家の活用		●	●		地域の担い手育成			●		観光需要に応じた新たなサービスの展開（再掲）	●		●	
子どもが安心して遊べる公園の整備、災害時の避難場所の整備	●			●	山や川等、自然環境を活かした憩い空間の整備	●		●		温泉旅館との連携による新たな取組みの展開	●	●								道路利用者も利用できるコンビニや飲食店等のサービスの提供	●	●		
他の施設や市内との交通手段の確保				●	公共交通の利用促進				●	周辺農業と連携した体験プログラムの展開	●		●							観光情報発信機能の整備	●			
										地元の祭りとの連携	●		●							特産品の開発	●		●	
										川辺を活かした新たなサービスの提供	●		●							温泉旅館との連携による新たな取組みの展開（再掲）	●	●		
																				国道 19 号を介した瑞浪市中心部やきなぁた瑞浪との連携（再掲）	●	●		
																				温浴施設の整備※		●		
																				農産物直売所の整備※		●		

※事業者ヒアリング等を基に検討した結果、温浴施設と農産物直売所については、新たに道の駅への整備は行わない方針とします。（P21 補足）

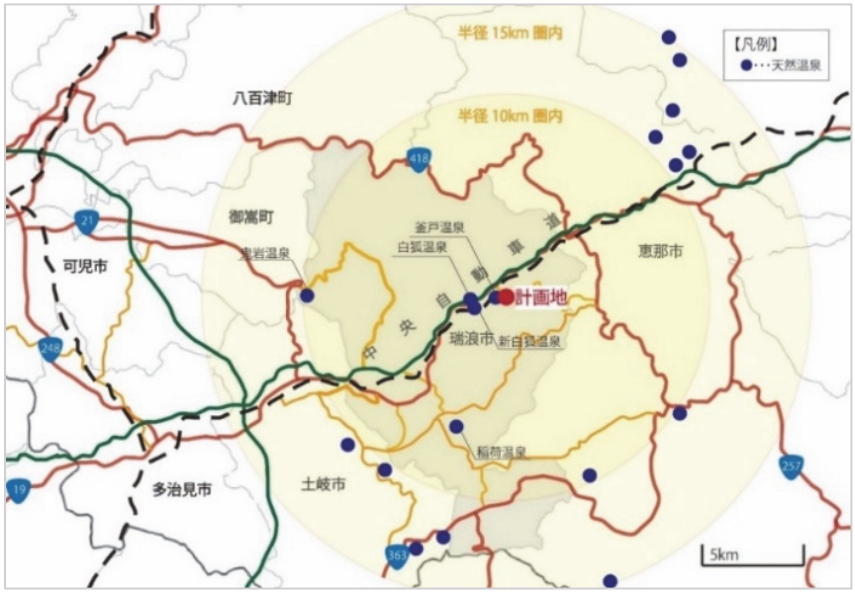
（余白）

■補足：温浴施設と農産物直売所の導入可能性について

温浴施設と農産物直売所の整備については、事業者ヒアリングから、新たな整備が難しいことが指摘され、これらの導入可能性について以下のとおり整理しました。

◆温浴施設を導入する上での課題

- 初期投資や維持費が高額であり、施設を維持し続けるのが容易ではない。
- 温泉を掘る費用は高額だが、掘ってみなければ、泉質や湯量がわからない。
- 釜戸温泉・白狐温泉など、周辺にすでに多くの温浴施設があり、競合する恐れがある。



図表 16　天然温泉の立地状況

《整備方針》

温浴施設は財政的な負担が大きいため、公費での整備は慎重な検討が必要です。なお、民間事業者の出店意向がある場合は、市として必要な協力を行います。

◆農産物直売所を導入する上での課題

- 兼業農家や小規模農家が多く、安定的な商品の仕入れが難しい。
- 総農家数が年々減少しており、出荷者の確保が難しい。
- 商品がきなぁた瑞浪と分散されるため、互いに商品数が不足する。
- きなぁた瑞浪と品ぞろえが似通うため、差別化が難しい。

図表 17　総農家数（瑞浪市）

項目	総農家数	販売農家数	自給的農家数	土地持ち非農家数
2005 年	1,561	477	1,084	889
2010 年	1,399	377	1,022	937
2015 年	1,220	331	889	901

出典：「農業センサス（第 1 巻都道府県別統計書）」

《整備方針》

農産物直売所は導入しない方針とし、きなぁた瑞浪から仕入れた食材や加工品を販売する等、積極的に連携を図ることで、共存共栄をめざします。

5 道の駅のコンセプト

めざすまちの実現に向け、整理した役割を担う道の駅となるように、道の駅のコンセプトを決めました。

5.1 道の駅整備の基本方針

道の駅の基本構想策定に向けて、以下の３つの基本方針を掲げます。

〇未来のまちづくりに向けた　**「釜戸地区の「暮らしの拠点」の一翼を担う道の駅」**

⇒地域活性化の拠点として、釜戸地区及び瑞浪市のまちづくりの観点から、どのような道の駅が良いのかを考えるだけでなく、めざすまちの姿の実現に寄与する道の駅とします。

〇集客力を高める　**「立ち寄り目的となる道の駅」**

⇒瑞浪市の道路利用者の玄関口として、新たに整備する国道 19 号瑞浪恵那道路の利用者がふと立ち寄るだけでなく、日常的に地元の人たちが利用し、また、遠方からも目的地として訪れていただけるような道の駅とします。

〇柔軟に仕掛けが更新できる　**「地域主体の道の駅」**

⇒　開駅までの時間を、段階的な施設整備期間と位置づけ、地域ニーズに応じた柔軟な対応ができるよう、検討段階から開設・運営に至るプロセスを地域と共有し、積極的に関わることのできる道の駅とします。

5.2 道の駅のコンセプト

上記の基本方針を踏まえ、道の駅のコンセプトを以下のように設定します。

“まちと　ともに　育つ　道の駅”

6 道の駅の導入機能

6.1 道の駅への導入機能の設定

検討結果を踏まえ、メインターゲットを設定し、道の駅に導入すべき機能を以下のように整理しました。

○「暮らしの拠点」を利用する瑞浪市民や釜戸地区の住民（子どもから高齢者まで）
○国道 19 号瑞浪恵那道路を利用する道路利用者

道の駅お茶の京都 みなみやましろ村(京都府)

1) 釜戸地区の住民の暮らしを支える

○日常の買い物や交通利便性の確保
⇒よろずや（日用品やサービス等が手に入る小売店）、交通拠点
○災害時の安全性の確保
⇒避難施設、備蓄倉庫
○多様な楽しみ方の創出（暮らしの質を高める）
⇒子どもが安心して遊べる公園、多様な飲食店

なぎさのテラス(滋賀県)

防災倉庫(瑞浪市)

2) 釜戸地区から賑わいを創りだす

○既存資源の活用
⇒自然に囲まれた広場、上平用水や佐々良木川を活かした水辺空間の創出、きなぁた瑞浪や他の市内資源との連携
○釜戸地区の個性の発揮
⇒釜戸の特産品の開発、特産品を活用した土産販売や飲食店、農業等と連動した体験プログラム、地元の祭りとの連携、イベント等による新たな個性の創出

清流平和公園(岐阜県)

○釜戸地区住民と来訪者の交流促進
⇒カフェ等の飲食店、交流拠点づくり（広場、イベントスペース等）、音楽やアート等多様なイベントの実施

6.2 導入機能の規模

道路利用者が道の駅に立寄ることで、新たな需要が生まれるため、これまで地域内で商圏を成立させることが難しかった機能を道の駅に導入できる可能性があります。

道路利用者と地域住民の双方の利用を想定した場合の施設規模は以下のとおりです。

図表 18 道の駅の規模

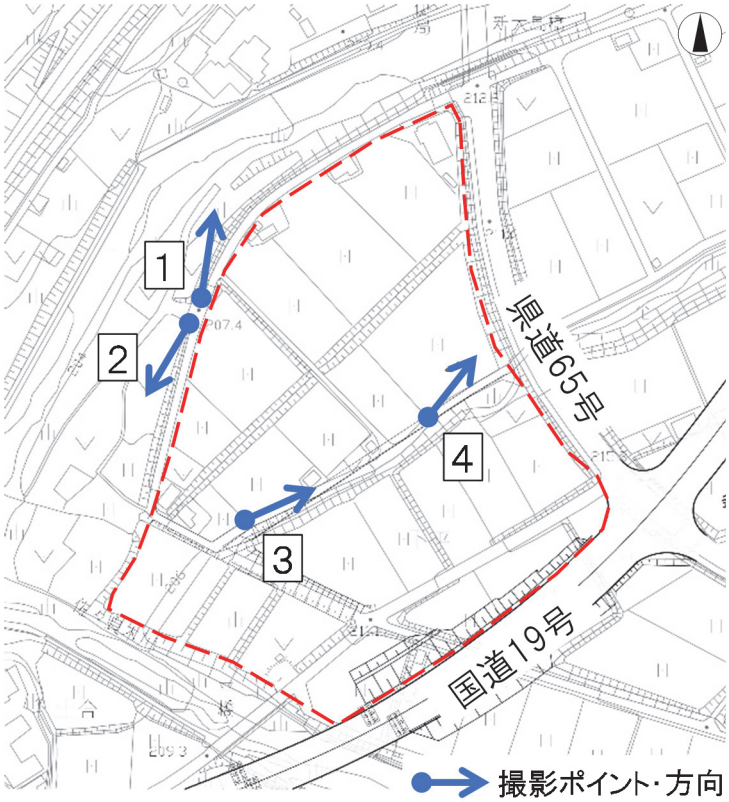
機 能	算定概拠	面 積
よろずや	前面交通量をもとに算出	約 200～500 ㎡
飲食施設		約 200～300 ㎡
トイレ		約 300 ㎡
情報施設、休憩所	周辺類似事例より	約 100～200 ㎡
	道の駅 合計	約 1,000 ㎡

7 配置計画

7.1 計画地周辺の現況と施設配置の考え方

1) 地形条件の把握

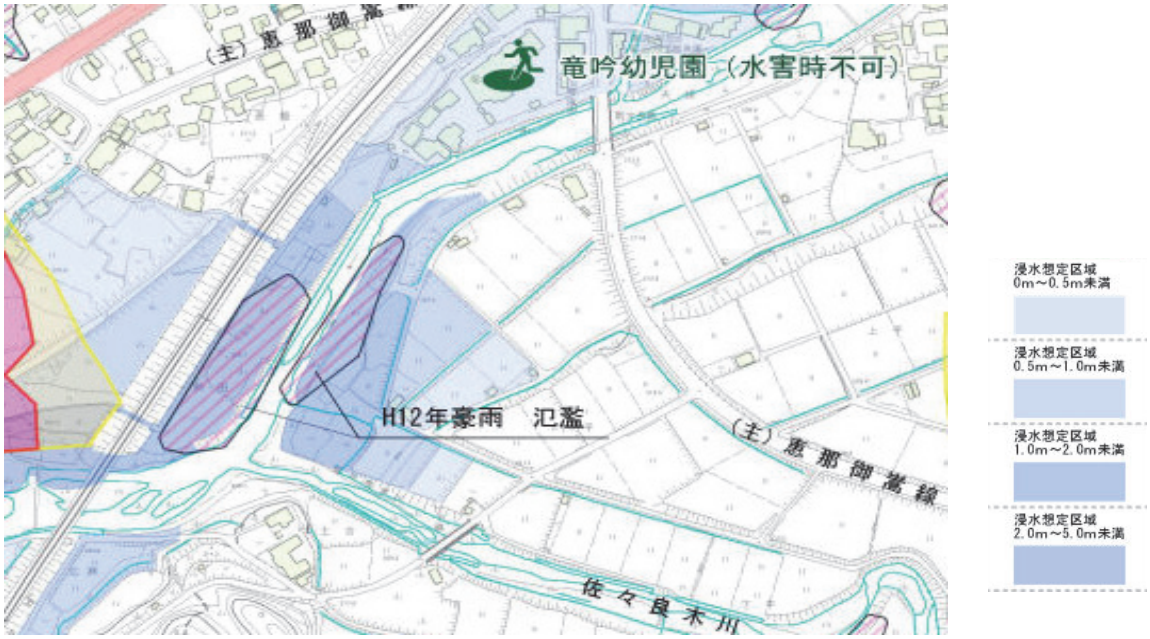
計画地は計画地内や前面道路と高低差があるため、施設配置を考える上では、敷地造成を踏まえて検討する必要があります。



図表 19　計画地周辺の地形の現況

2) 水害への対応

瑞浪市では、水害時の浸水想定をハザードマップで示しており、施設配置を考える上では、水害時の影響も踏まえて検討する必要があります。



【前提条件】24 時間総雨量：小里川合流点より　下流：305mm　上流：211mm

図表 20　計画地周辺の水害時の浸水想定（50 年に一度相当の規模）

出典：「瑞浪市土砂災害ハザードマップ　No.51 町屋地区」

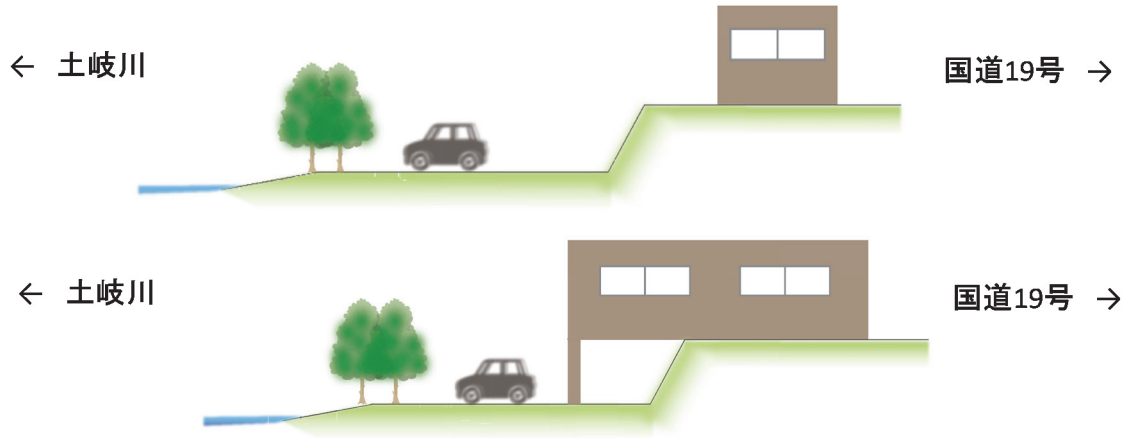
3) 施設配置の考え方

(1) 施設の配置イメージ

敷地造成は計画地周辺の景観を生かした、河川敷と敷地との一体的な景観形成をめざし、出来る限り地形を生かす計画とします。

施設配置は高台となっている敷地南側に施設を整備する、又は建物の構造を工夫することにより、水害時の安全性に配慮した計画とします。

ただし、今後の詳細検討により、景観や水害時の安全性だけでなく、交通安全性、施設の利便性等についても考慮し、適切な施設配置について検討します。

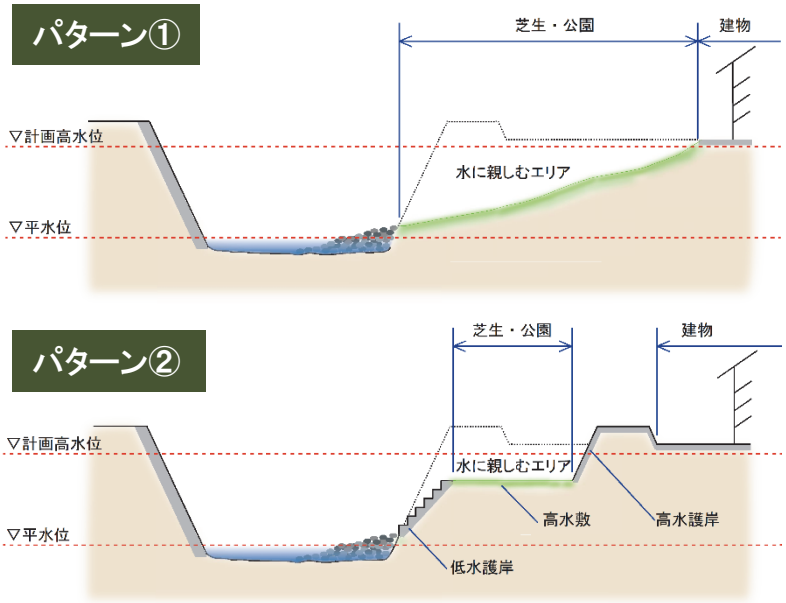


図表 21　断面イメージ

(2) 広場の整備イメージ

土地の魅力を引き出し、水に親しみやすい広場（親水広場）とするため、河川敷と敷地とが分断されることなく、なだらかにつながるパターン①による広場の整備をめざします。ただし、パターン①による整備は河川管理上の課題もあるため、今後の協議状況に応じて、パターン②を組み合わせ、良好な景観と安全性の両立をめざします。

また、浸水頻度を下げるため、河川改修の実施について詳細な検討を行います。

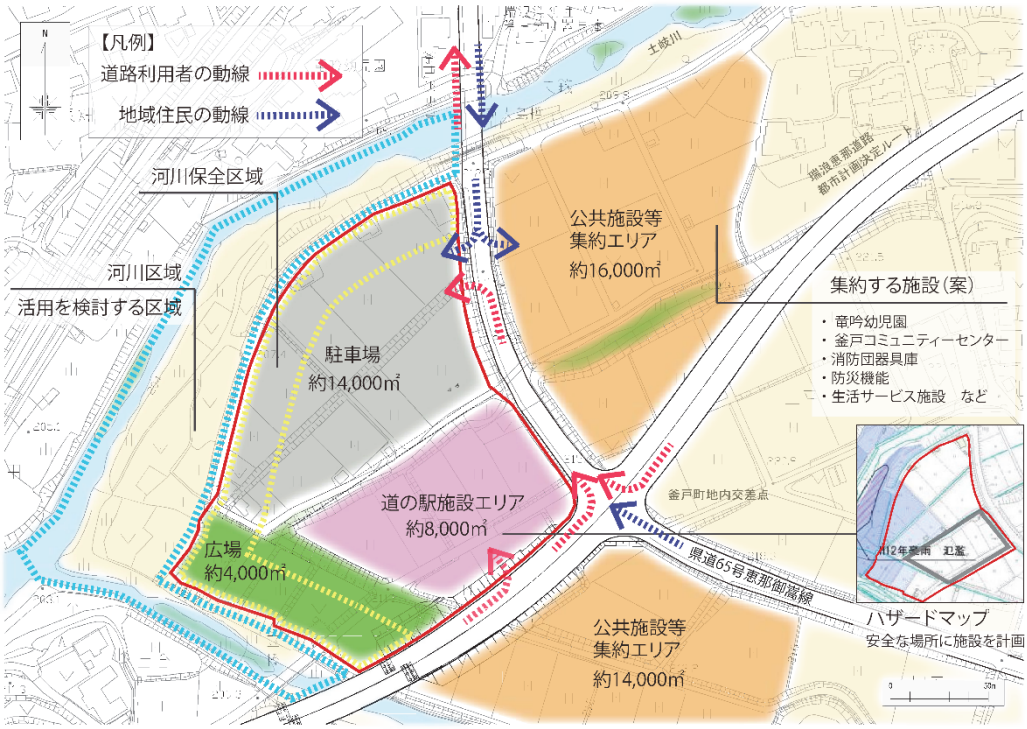


- 公園区域は冠水する可能性のある区域とする。
- 建物区域は河川計画上、浸水しない区域とする。
- 建物区域は計画高水位以上とし、浸水しない造成高とする。
- ある程度の雨量では冠水しない高水敷エリアを整備し、芝生・公園区域として利用する。
- より水に親しみやすくするため、低水護岸は階段タイプとする。

図表 22　広場の整備イメージ

7.2 施設配置とゾーニングイメージ

具体的なゾーニングを以下に示します。

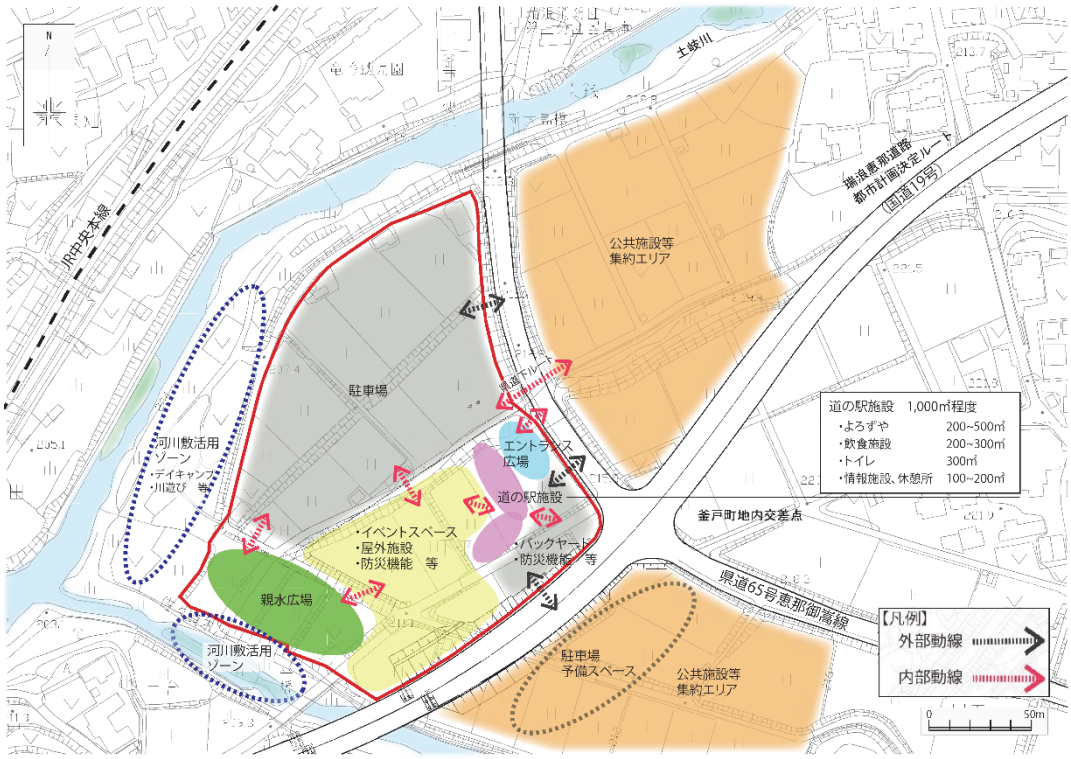


図表 23　ゾーニングイメージ

1) 配置計画イメージ

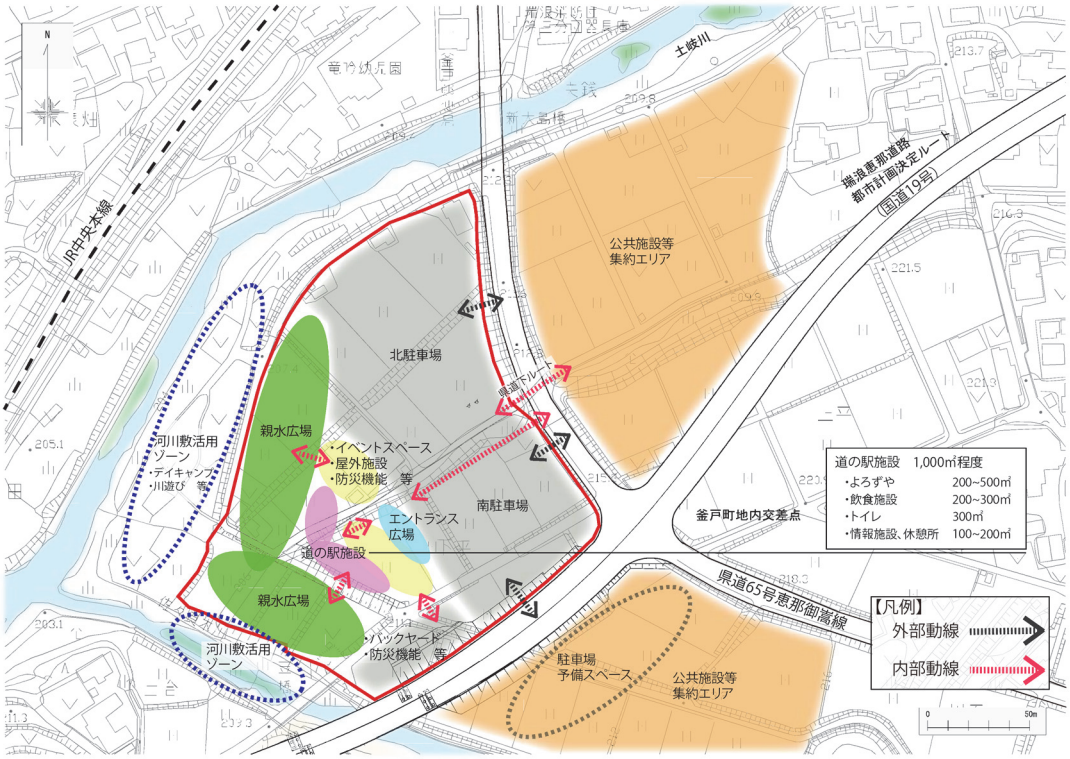
ゾーニングイメージをもとに、地形を生かした施設配置計画の例を以下に示します。

■ 配置計画イメージ例１（施設エリアの安全性を確保し、駐車場を一面的に整備）



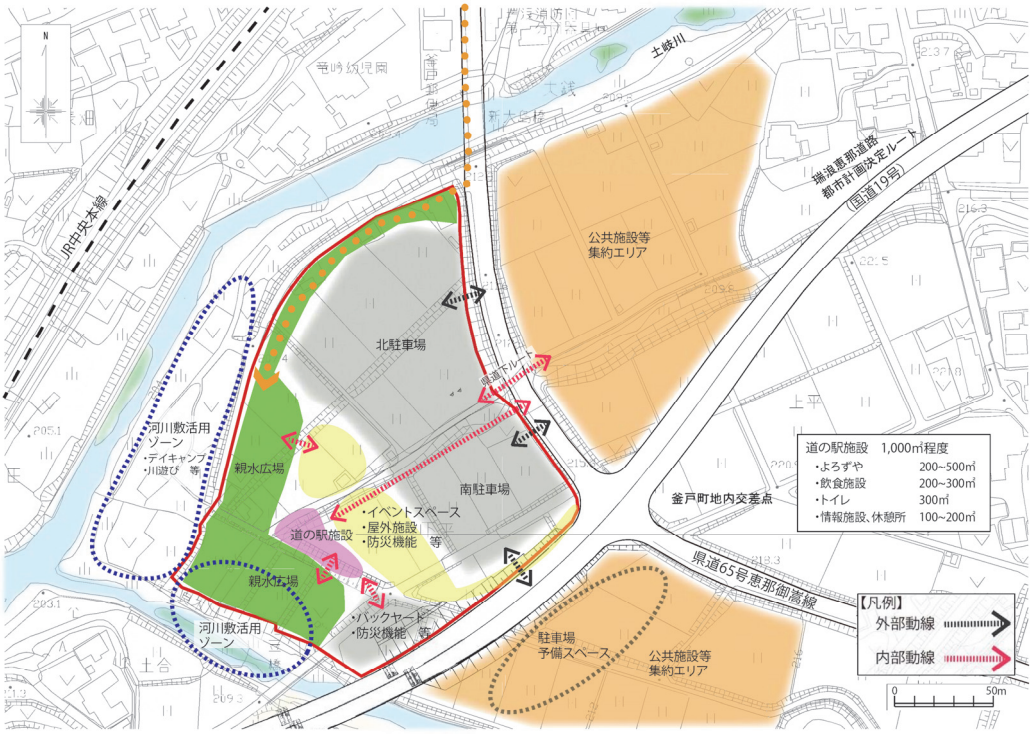
図表 24　配置計画イメージ　例１

■ 配置計画イメージ例２（施設エリアと駐車場一部の安全性を確保）



図表 25　配置計画イメージ　例２

■ 配置計画イメージ例３（例２に加えて釜戸市街地から親水広場への歩行者ｱｸｾｽを整備）

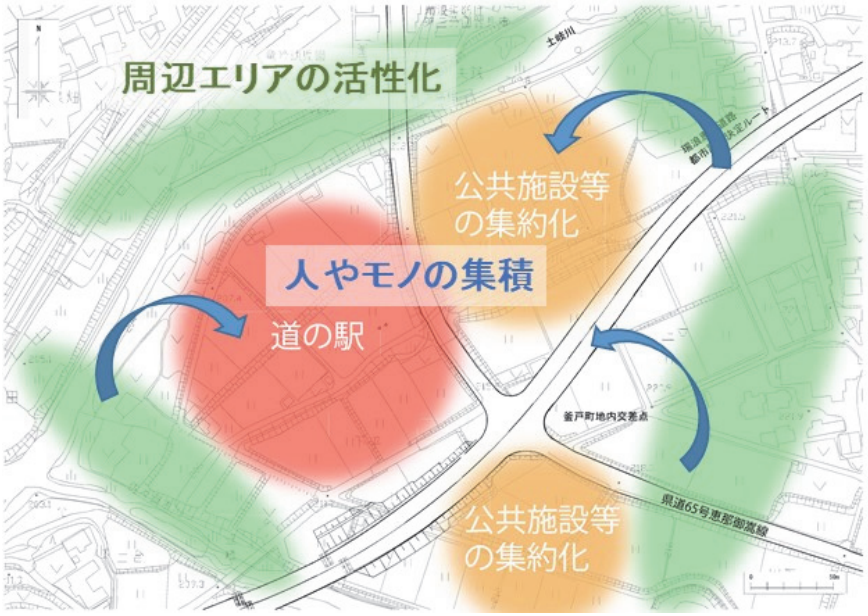


図表 26　配置計画イメージ　例３

2) 公共施設等の集約

(1) 周辺エリアの活性化をめざした公共施設の集約化

道の駅の整備をきっかけとした、周辺エリアの活性化、利便性の向上と、市の課題解決のために、周辺部への公共施設等の集約について検討します。



◆市の目的
- 老朽化した公共施設の整理、複合化
- 安全な避難所の整備
- 施設の維持管理費等のコスト削減
- 道の駅だけでなく、周辺エリア全体の魅力向上
- 住みやすさの実現により移住促進
- 道路利用者等の立寄りによる商業活性化

◆地域住民のメリット
- ワンストップサービスによる利便性の向上
- エリア全体の魅力向上により人やモノが集積
- 商業活性化が期待でき、より豊かな生活を実現

図表 27　計画地周辺の整備方針

(2) 集約によるメリット

施設を集約することで得られるメリットについて整理します。

メリット①　地域の交流を活性化する

- 地域や世代を超えた人々との交流を生み出します。

　様々な施設を集約することで、普段関わることのない人々が同じ場所に集まり、顔を合わせることで、新たな交流を促します。

- 商業が活性化し、利便性の向上が期待できます。

　様々な施設を集約することで、イベントの開催や店舗の出店等が増え、商業が活性化されます。これにより、利便性が向上し、より豊かな生活の実現が期待できます。

釜戸公民館でのフリーマーケットの様子
（釜戸町まちづくり推進協議会）

メリット②　道の駅と機能を兼用する

- コストを削減することができます。

　施設を新たに整備し、維持するためには、建設費や維持管理費、修繕費等のコストがかかります。市では公共施設を維持し続けるための財源確保が課題となっていることから、施設を集約し、市の財政負担を軽減することで、持続可能な公共サービスの提供をめざすことができます。

- 施設稼働率が向上します。

　道の駅は集客のほとんどが週末に集中しており、平日の稼働率の低さが問題点として挙げられます。このことから、平日は主に地域住民が利用し、週末は主に道路利用者が利用することが想定される機能を道の駅と兼用することで、無駄を省き施設の効率的な運用をめざすことができます。

【機能兼用の例】
・公共施設の駐車場を週末に道の駅の臨時駐車場として利用する。
・道の駅の飲食ｽﾍﾟｰｽを幼児園や小学校のﾗﾝﾁﾙｰﾑとして利用する。
・公共施設のキッズルームを週末に道の駅利用者に開放する。　等

メリット③　災害時の安全性を確保する

- 地域の防災機能を強化します。

　まちの大きな課題として、災害時の安全な避難所の整備が挙げられます。災害時に影響の少ない場所に施設を集約し、情報提供や炊き出し、支援物資の集配等、必要な機能を備えた避難所を整備することで、地域の防災機能強化をめざします。

- 道路利用者に一時避難所を提供します。

　国道 19 号瑞浪恵那道路の開通により交通量が増加するため、災害発生時には多くの帰宅困難者を一時的に受け入れる避難場所が求められます。そのため、地域住民だけでなく、道路利用者の避難も想定し、集約化によりエリア一帯の防災機能の強化をめざします。

マンホールトイレ
（瑞浪市　瑞浪中央公園）

3) 釜戸地区の公共施設等

公共施設集約化の検討対象となる、釜戸地区の施設の概要を以下に示します。道の駅やその周辺への集約化については、今後詳細な検討を行います。

図表 28 公共施設・その他施設の概要（釜戸地区）

施設名称	取得年度	敷地面積 延床面積	老朽化率※1
釜戸公民館（釜戸コミュニティーセンターを複合）	H10 年度	6,960.61 ㎡ 1,172.73 ㎡	32.0%
釜戸小学校（校舎）	S59 年度	18,848.00 ㎡ 3,484.00 ㎡	66.0%
竜吟幼児園（園舎）(子育て支援センターを複合)	S54 年度	2702.00 ㎡※2 940.97 ㎡	77.0%
釜戸郵便局	—	500.00 ㎡※3 —	—
みずなみ陶生苑(老人ホーム、デイサービス等)	H2 年	5,391.84 ㎡※4 2,559.08 ㎡※4	—
多治見警察署釜戸警察官駐在所	H10 年度	250.00 ㎡※3 —	—
消防器具庫（第３分団第２部（団員詰所））	S56 年度	218.30 ㎡ 109.4 ㎡	—
東濃信用金庫　釜戸支店	—	500.00 ㎡※3 —	—

※1　老朽化率：減価償却累計額÷取得価額
※2　瑞浪市「平成 29 年版 瑞浪市統計書」参照
※3　地図を基に算出
※4　瑞浪市有地、社会福祉法人美濃陶生苑 HP「みずなみ陶生苑」参照

出典：公共施設白書 平成 26 年度版

8 今後の進め方

8.1 地域主体の運営の考え方

この事業は、リニア中央新幹線の開業及び国道 19 号瑞浪恵那道路供用を前提とした、道の駅の整備事業であり、2027 年の開駅を想定しているため、開駅までに期間があります。

また、住民意向調査にて、道の駅の運営等に関わりたいと考える方が多くいたこともあり、「瑞浪市道の駅検討委員会」では「施設整備までの時間を活用し、将来的に道の駅で活躍してくれそうな人たちを集め、地域での運営組織をつくることが、地域活性化に寄与するのではないか」という意見がありました。そこで、道の駅の運営にあたって、地域が主体的に参画できる仕組みを検討しました。

地域が主体的に参画することで、地元住民の意向を十分に踏まえることができるため、道の駅が「暮らしの拠点」の一翼を担う施設となると考えます。

1) 道の駅運営体制案について

道の駅開駅までの取組みを含めた運営体制として、以下のような体制を想定しています。

(1) 釜戸の将来ビジョン協議会（仮称）

釜戸地区全体のまちづくりを念頭に、道の駅を含め、新たな釜戸地区の価値創造について考える組織として設置します。具体的には、将来のまちづくりについて考えるとともに、新たな価値創造に向け、エリアマネジメントを行います。

(2) WG（ワーキンググループ）

釜戸の将来ビジョン協議会（仮称）の内部組織として、道の駅や、他の地域活性化各施策など、取組みの検討・実践を行うＷＧを設置します。

道の駅ＷＧについては、開駅までの期間を活かし、道の駅の経営に向けた勉強会などを行うとともに、各コンテンツの試行運営をマネジメントするなど、地元が主体となった運営組織の核となり、将来的には法人化等をめざします。

(3) 各コンテンツの実践 PT（プロジェクトチーム）

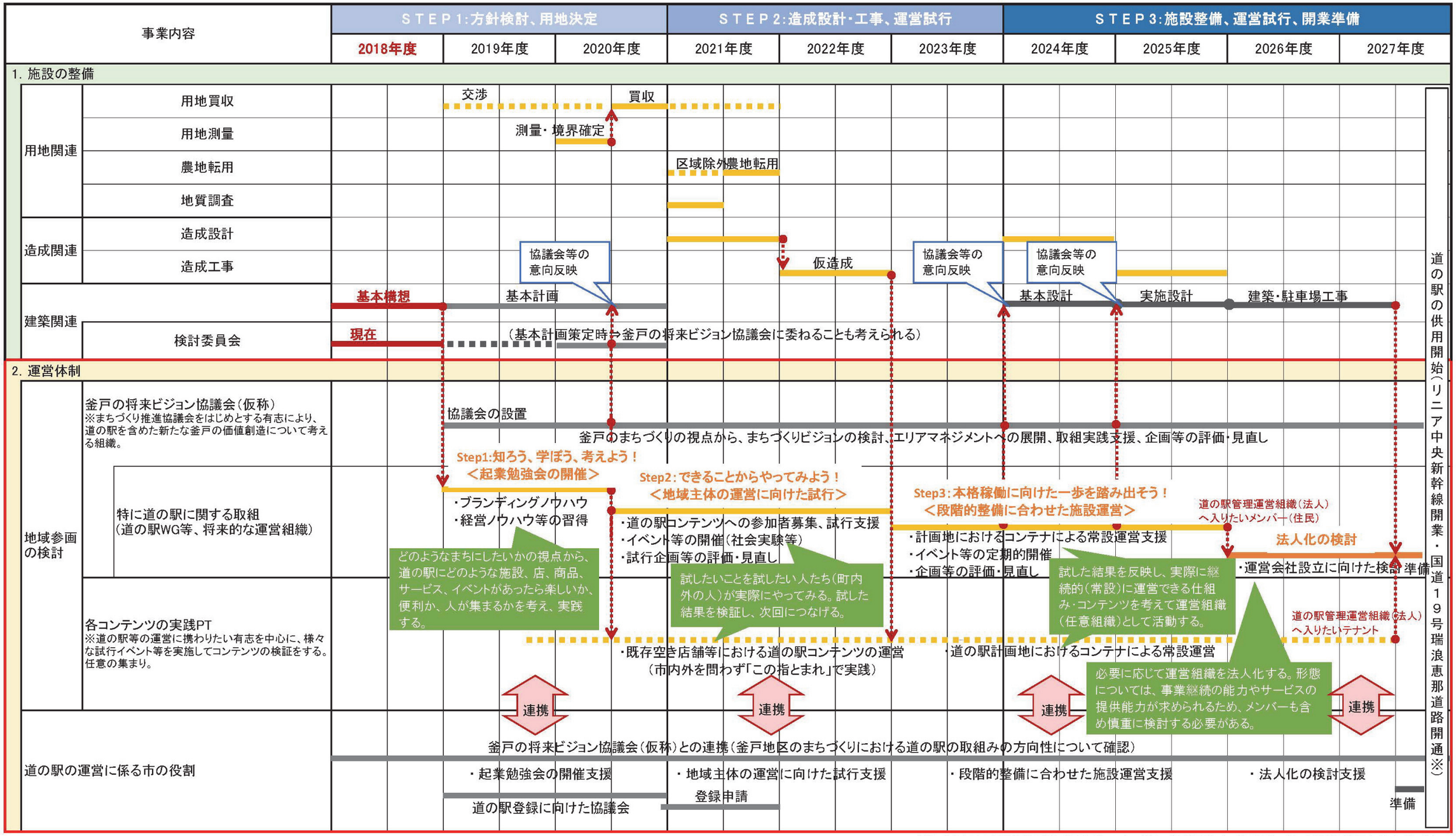
現在想定する「よろずや」「飲食店（カフェ等）」「イベントの開催」「施設の清掃管理等」のコンテンツについて参加したい人達を集め、イベントや試行運営等を行う PT を設置します。

この試行運営を経て、道の駅への導入コンテンツとなりますが、それぞれのコンテンツの運営者は、住民が主体となる場合や、民間企業が主体となる場合などが考えられます。

（余白）

8.2 道の駅開駅に向けたロードマップ（案）

道の駅整備と並行して、住民が主体となった道の駅運営組織設立に向けたロードマップを検討しました。



※国道19号瑞浪恵那道路開通については、瑞浪市として要望している時期を示したものです。

図表 29 道の駅開駅に向けたロードマップ（案）

（余白）

8.3 今後の取組み

今後は、この基本構想を前提に、基本計画、基本設計、実施設計、建設工事と、道の駅整備に向けて、具体的な検討を進めていきます。

また、道の駅の整備に関しては、国土交通省の補助だけでなく、経済産業省や農林水産省など、導入機能に応じた補助事業を幅広く検討・活用します。

なお、導入施設の機能や規模、施設の配置、地域参画による管理運営手法等については、段階的な検討と試行を繰り返しながら詳細を決定していきます。

9 瑞浪市道の駅検討委員会について

■瑞浪市道の駅検討委員会委員

※敬称略

役　職	氏　名	所　属	備　考
会長	はらだ　もりひろ 原田　守啓	岐阜大学流域圏科学研究センター　准教授	学識経験者
副会長	みぞぐち　ひろとし 溝口　博敏	釜戸町区長会　会長	まちづくりに関する見識を有する市民
委員	でむら　よしふみ 出村　嘉史	岐阜大学工学部社会基盤工学科　准教授	学識経験者
〃	わたなべ　としひろ 渡邉　敏博	釜戸町まちづくり推進協議会　会長	まちづくりに関する見識を有する市民
〃	いしかわ　りょうこ 石川　亮子	釜戸町区長会選出　女性委員	まちづくりに関する見識を有する市民
〃	あだち　わたる 足立　亘	大湫町区長会　会長	まちづくりに関する見識を有する市民
〃	わしお　けんいちろう 鷲尾　賢一郎	瑞浪商工会議所　会頭	専門知識を有する団体に所属する者
〃	みずの　みきたか 水野　幹隆	瑞浪青年会議所　理事長	専門知識を有する団体に所属する者
〃	みずの　きちえ 水野　吉衛	陶都信用農業協同組合　経済部長	専門知識を有する団体に所属する者
〃	もり　しんじ 森　真二	瑞浪市金融協会　会長	専門知識を有する団体に所属する者
〃	すみ　まさみ 鷲見　正己 (～H31.1.22) おざき　ひろゆき 尾﨑　浩之 (H31.1.22～)	岐阜県東濃県事務所　所長	関係行政機関の職員
〃	なばり　まこと 名張　誠	岐阜県多治見土木事務所　所長	関係行政機関の職員
〃	みぞぐち　じゅんじ 溝口　純司	公募市民	公募による市民
〃	いとう　かずみ 伊藤　和美	公募市民	公募による市民

■瑞浪市道の駅検討委員会開催概要

開催日	検討内容
準備会（H30.3.19）	1．瑞浪市の上位計画、釜戸地区の現況、道の駅について 2．今後の事業の進め方について
第１回（H30.6.27）	1．検討スケジュールの確認 2．地域活性化の拠点整備に関するアンケート結果報告（速報） 3．ワークショップ開催報告（中間）
第２回（H30.7.30）	1．地域活性化の拠点整備に関するアンケート結果報告 2．ワークショップ開催結果報告（中間） 3．道の駅導入機能・コンセプトの検討について（釜戸地区の地域活性化の方向性について） 4．近隣県在住者アンケートについて 5．道の駅整備スケジュールについて（道の駅開駅に向けたロードマップ、地域住民の参画について）
第３回（H30.11.12）	1．ワークショップ開催結果報告 2．地域活性化の拠点整備に関するアンケート結果（近隣県在住者アンケート） 3．瑞浪市道の駅基本構想案について（道の駅検討背景、導入する機能、コンセプト等）
第４回（H31.１.22）	1．前回までの検討内容について 2．道の駅開駅に向けたロードマップ（地域参画の検討）について 3．施設の配置計画・河川の活用と広場の整備について
第５回（H31.2.20）	1．瑞浪市道の駅基本構想案について 2．まちづくり推進協議会活動紹介